

<評価凡例>
S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。 A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。
B 計画に対し十分に組み組んでいる。 C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画		第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置							
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)			第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価	
								本	説明
前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立3病院(県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院)を運営し、他の医療機関では対応困難な高度・専門医療等の提供をはじめ、救急医療や災害時医療の提供、公的医療機関への医師派遣など、本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献してきました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期目標期間においては、地方独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を行い、県立総合病院における先端医学棟の開棟をはじめ、先進的な医療施設の整備及び医療機器の導入など、医療の質の向上とその提供体制づくりに取り組んでいます。 また、経営面においても、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しており、健全な病院運営が続いております。 医療の高度化や医療ニーズの多様化が進む一方で、超高齢社会が到来し、平成37年には全ての団塊世代が75歳以上となることから、平成37年における医療提供体制を確保するため、県では地域医療構想を策定し、医療機能の分化や地域の医療機関の連携を推進しています。 このような中で、平成31年度から始まる第3期中期目標期間においては、 1 「信頼と根拠に基づく最適な医療を安全に提供する」ことを診療の基本姿勢に据え、本県医療の規範となるべく医療の提供に努めること。 2 本県の地域医療を支える最後の砦たることを目指し、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療などの政策医療や不採算医療の提供に一層取り組むこと。 3 医師の確保及び育成に努めるとともに、地域医療を担う公的医療機関への医師派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。 4 様々な領域において医療の質の向上を目指した先駆的な取組に挑戦し、成果を上げること。これらの成果を情報発信し、県民や他の医療機関と共有すること。 5 医療水準の向上及び医療人材の確保を目指し、臨床研究に取り組むこと。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて県が推進する社会健康医学研究に協力すること。	前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院(以下「県立病院」という。)を運営し、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること、地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすことを使命とし、本県の政策医療を担い、効率的、効果的な病院運営に取り組んできました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期計画期間においては、県立総合病院の先端医学棟の開棟をはじめ、県立こころの医療センターや県立こども病院においても先進的な医療の提供や医療体制の充実に努め、医療の更なる質の向上に取り組むなど、県立病院としての使命を果たしてきました。 経営面では、経費の削減努力等により、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しています。 平成31年度から始まる第3期中期計画期間においては、今後の更なる高齢化の進展や医療需要の変化に対応していくため、国における医療提供体制の改革をはじめ、静岡県保健医療計画や新公立病院改革ガイドラインを踏まえ、県立病院が求められる役割を果たせるよう取り組みます。 具体的な取組としては、引き続き「がん医療」、「循環器医療」、「救急医療」等の高度で専門的な医療の提供や地 1 科学的根拠に基づく最適な医療を安全に提供し、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の規範となる役割を果たす。 2 「地域医療支援の中心的機能」を果たすため、高度・専門・特殊医療、救急・急性期医療等、他の医療機関では対応困難な医療や不採算医療など、県の医療政策に対し積極的に取り組む。 3 教育研修をはじめ、臨床研究機能の充実強化、勤務環境を向上することにより魅力ある病院づくりに努め、優秀な人材の確保と育成及び県との協働による本県の医師確保対策に取り組むこと。 4 職員一人ひとりが医療の質の向上を目指し、先駆的な取組や業務の改革と改善に努め、その成果を情報発信し、県民や他の医療機関との共有を図る。また、全ての職員が職務について 5 県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用して、臨床研究に取り組むほか、県が行う社会健康医学の研究推進に協力する。	—	—	—					
第1 中期目標の期間 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。	第1 中期計画の期間 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。	— —		— —		— —			

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）							第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																											
															本	説明																																										
第2 県民に対して提供する医療サービス その他の業務の質の向上に関する事項		第2 県民に対して提供する医療サービス その他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		第1 県民に対して提供する医療サービス その他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																						
県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に取り組み、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族の立場に立ち、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。		県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。																																																								
1 医療の提供		1 医療の提供		1 医療の提供																																																						
医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。		県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。																																																								
(1) 基本的な診療理念		(1) 基本的な診療理念		(1) 基本的な診療理念		－	－	－	－								－																																									
診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。		診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。		各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足度（入院・外来）の向上		1	各病院	セカンドオピニオン数（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td><td>114</td><td>82</td><td>110</td></tr><tr><td>こころ</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td><td>48</td><td>45</td><td>30</td></tr></table> セカンドオピニオン用情報提供料算定件数（総合）（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td></tr><tr><td>診療情報提供料（Ⅱ）</td><td>150</td><td>116</td><td>116</td><td>111</td><td>116</td><td>135</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	総 合	90	112	114	114	82	110	こころ	－	－	－	－	－	－	こども	58	48	74	48	45	30	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	診療情報提供料（Ⅱ）	150	116	116	111	116	135	A	第3期中期計画期間を通して、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。 他院への情報提供については、コロナ禍で件数は減少したものの、令和5年度にはそれ以前の状況に回復した。
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																				
総 合	90	112	114	114	82	110																																																				
こころ	－	－	－	－	－	－																																																				
こども	58	48	74	48	45	30																																																				
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																				
診療情報提供料（Ⅱ）	150	116	116	111	116	135																																																				
				①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。		2	総合	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td></tr><tr><td>新規作成（件）</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td><td>17</td><td>4</td><td>26</td></tr><tr><td>修正（件）</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td><td>66</td><td>70</td><td>65</td></tr><tr><td>適用率（%）</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>※74.2</td></tr></table> ※ 電子カルテ更新等に伴う計算方法の見直しを実施。							区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	新規作成（件）	34	9	23	17	4	26	修正（件）	253	103	225	66	70	65	適用率（%）	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※74.2	A	第3期中期目標期間を通して、クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行っている。 令和4年度に電子カルテを更新し、令和5年度は患者の状態変化における評価・統計等の分析が容易となるBOMを導入し、計算方法の見直しを実施した。 ※BOM: 日本クリニカルパス学会の患者アウトカム用語基本マスター														
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																				
新規作成（件）	34	9	23	17	4	26																																																				
修正（件）	253	103	225	66	70	65																																																				
適用率（%）	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※74.2																																																				
				①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。		3	こころ	令和5年度末現在 稼働クリニカルパス 4件 （m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン） 稼働クリニカルパス件数（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A	クリニカルパスについては、中期目標期間中の導入件数は変化していないが、令和5年度に3病院共通の電子カルテが導入されることに伴い、医療の質の向上や業務の効率化、及び患者の負担軽減に繋がるよう、既存パスの見直しを行った。																												
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																				
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																				

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価				
																本	説明			
					4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こども	稼働クリニカルパス件数 (単位：件)							A	第3期中期目標期間を通じて稼働パス数は年々増加した。クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供した。				
								区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度			5年度			
								稼働クリニカルパス		51	51	52	61	54			62			
※令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。																				
					5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	各病院	チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 5年度							S	SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 総合病院では、令和元年度2月に県からの入院受入れ体制の整備要請を受け、院内のワーキンググループ設置するなど対応にあたった。また、新型コロナウイルス感染症専門病棟を設置し、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たった。また令和4年には、VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)が分離される患者が多数確認されたが、専用病棟を設置するなどし、約6ヶ月という短期間で収束することができた。 また、令和元年度の精神科医師の着任以降、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームにより診療報酬の高い加算を算定できており、収益面においても大きく貢献している。令和5年度には、精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟し、精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働して精神疾患と身体疾患を併せ持つ身体合併症等に対して包括的な医療を提供している。 各病院でも、最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施しており、多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついた。				
								区 分		チーム名	開催頻度	主要メンバー								
								総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師									
感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																		
抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																		
褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																		
呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学士、理学療法士																		
認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																		
精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																		
緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																		
糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																		
排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																		
こころ	FLS(精神リエゾンサービス)チーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士																	
	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士																	
	要介護患者支援管理チーム	第1・3火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士																	
	栄養サポートチーム	週 1 回	医師・看護師・薬剤師・栄養士																	
	感染防止対策チーム	院内週1回 院外5回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																	
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士																	
	メンタ（包括型地域生活支援サービス）	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等																	
	栄養サポートチーム	週 1 回	医師・看護師・栄養士等																	
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																	
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士																	
						嚥下対策部会		1回/月	医師・看護師											
						リハビリテーション		適宜（週1回程度）	医師・看護師・理学療法士等											
チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)																				
						病院		項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	S					
						総 合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040							
							感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299							
							抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	－	－							
							褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160							
							呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134							
							認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514							
							精神科リエゾンチーム	－	580	772	4,164	3,852	3,483							
							緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206							
							糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294							
							排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500							
							FLS(精神リエゾンサービス)チーム						1,360							
							嚥下対策チーム						517							
							要介護患者支援管理チーム						84							
							計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591							
						こころ	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515							
							計	352	368	290	347	344	515							
						こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176							
							感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741							
							褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575							
							緩和ケアチーム	－	136	590	310	340	728							
							リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490							
							計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710							
					6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	各病院（企画）	3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。 医療安全対策、院内感染対策研修等							S	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 第3期中期目標期間中の院内感染対策研修及び医療安全対策研修について着実に研修回数を実施した。 医療安全対策研修の令和5年度の参加人数は、第3期中期目標期間中の最多となった。 新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心とした中核要員によるチームが感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。				
								区 分		集団感染数（件）							院内感染対策研修 医療安全対策研修			
										30年度	元年度	2年度	3年度	4年度			5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)
						総 合		0	1	0	1	24	12	4	4,054	24	9,480			
						こころ		1	0	0	0	0	2	3	435	6	791			
						こども		4	0	1	0	3	3	2	1,254	2	1,214			
						計		5	1	1	1	27	17	9	5,743	32	11,485			

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）		第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																																												
							本	説明																																																												
				7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	総合 「患者様の声」の推移（看護師） (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>ご意見</td><td>85</td><td>81</td><td>53</td><td>79</td><td>85</td><td>67</td></tr><tr><td>感謝</td><td>29</td><td>40</td><td>34</td><td>37</td><td>44</td><td>38</td></tr></table> 患者満足度調査 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>入院</td><td>98.9</td><td>98.0</td><td>98.2</td><td>97.6</td><td>99.0</td><td>98.4</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	ご意見	85	81	53	79	85	67	感謝	29	40	34	37	44	38	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	A	第3期中期目標期間において、看護師に対する「患者様の声」の件数は、一定数の声を継続的に頂いており、患者満足度調査における平成30年度から5年間90％以上を維持してきた結果からも、適切に対応してきたことが評価される。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。																							
				区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																										
ご意見	85	81	53	79	85	67																																																														
感謝	29	40	34	37	44	38																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																													
入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																													
				8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	各病院（企画） 患者満足度調査 (単位：％) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td rowspan="2">総 合</td><td>入院</td><td>98.9</td><td>98.0</td><td>98.2</td><td>97.6</td><td>99.0</td><td>98.4</td><td>90以上</td></tr><tr><td>外来</td><td>94.3</td><td>93.6</td><td>94.3</td><td>95.6</td><td>95.9</td><td>94.7</td><td>85以上</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>入院</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>外来</td><td>91.0</td><td>95.7</td><td>92.7</td><td>100.0</td><td>92.3</td><td>90.7</td><td>85以上</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>入院</td><td>96.1</td><td>99.0</td><td>95.3</td><td>100.0</td><td>95.9</td><td>93.5</td><td>90以上</td></tr><tr><td>外来</td><td>98.9</td><td>98.1</td><td>96.5</td><td>97.3</td><td>100.0</td><td>97.1</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総 合	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	外来	94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上	こころ	入院	—	—	—	—	—	—	—	外来	91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上	こども	入院	96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上	外来	98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上	S	各病院では患者への説明や接遇などについて改善に努め、患者の視点に立った質の高い医療の提供を行っており、第3期中期目標期間中、各病院の満足度は高い水準を維持している。 また新型コロナウイルス感染症の対応など感染症対策にも配慮した対応を行った。 施設面でも食堂の新設や売店の改修、トイレや待合スペースのリニューアル工事などについて、患者の意見等も取入れ環境改善を図ることができた。
				区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
総 合	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																												
	外来	94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上																																																												
こころ	入院	—	—	—	—	—	—	—																																																												
	外来	91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上																																																												
こども	入院	96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上																																																												
	外来	98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上																																																												
(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	—	—	—	—	—	—																																																												
他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。 【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、こども） ・逆紹介率（総合、こころ、こども）	県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進 【目標値】 ・紹介率（総合、こころ、こども） ・逆紹介率（総合、こころ、こども）	9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る	総合 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>93.8</td><td>93.5</td><td>91.3</td><td>89.7</td><td>90以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>195.4</td><td>200.3</td><td>188.2</td><td>173.0</td><td>175以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上	逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上	A	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めた結果、紹介率、逆紹介率ともに第3期中期目標期間中における平均（紹介率92.2、逆紹介率183.8）は目標値を上回った。																																					
			区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																										
			紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上																																																										
逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上																																																													
10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	こころ 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>45.6</td><td>53.6</td><td>54.8</td><td>57以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>25.2</td><td>26.9</td><td>27.0</td><td>30以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上	逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上	B	紹介率は令和元年度に目標値に近く到達したものの、その後は新型コロナ感染症の拡大の影響もあって低下し、目標値には達していない。 逆紹介率は令和元年度、2年度に目標値を達成したものの、その後は落ち込んだ。 令和4年度以降は前年度実績を上回ってきており、今後も他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																													
紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上																																																													
逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上																																																													
11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	こども 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>91.1</td><td>91.1</td><td>90.1</td><td>94以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>46.2</td><td>61.4</td><td>47.8</td><td>53以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上	逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上	B	第3期中期目標期間を通じて、紹介率は90％以上を維持した。一方で、逆紹介率はコロナ禍で少し下がったが、期間後半に上昇した。 紹介率・逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認基準を満たしており、地域医療支援病院として機能を果たしている。 今後も地域医療機関との連携及び入退院支援センターの活動を通じた退院支援を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っていく。																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																													
紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上																																																													
逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上																																																													

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																																																		
								本	説明																																																																																																								
				12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合	地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頸 部 骨 折</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>82</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>40</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>127</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>108</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>45</td></tr><tr><td>虚 血 性 心 疾 患</td><td>92</td><td>73</td><td>67</td><td>33</td><td>32</td><td>27</td></tr><tr><td>心 房 細 動</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>慢 性 腎 臓 病</td><td>43</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td><td>31</td><td>30</td></tr><tr><td>肺 が ん</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 が ん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>潰 瘍 性 大 腸 炎</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>561</td><td>605</td><td>578</td><td>585</td><td>537</td><td>468</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	脳 卒 中	62	83	102	92	49	8	大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82	胃 が ん	61	55	51	55	54	40	大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127	乳 が ん	105	128	102	116	103	108	前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45	虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27	心 房 細 動	7	4	1	2	1	0	慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30	肺 が ん	0	2	0	0	0	0	肝 が ん	-	-	-	2	0	1	潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0	計	561	605	578	585	537	468	A	第3期中期目標期間において、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。
							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																				
脳 卒 中	62	83	102	92	49	8																																																																																																											
大 腿 骨 頸 部 骨 折	57	82	104	90	85	82																																																																																																											
胃 が ん	61	55	51	55	54	40																																																																																																											
大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127																																																																																																											
乳 が ん	105	128	102	116	103	108																																																																																																											
前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45																																																																																																											
虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27																																																																																																											
心 房 細 動	7	4	1	2	1	0																																																																																																											
慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30																																																																																																											
肺 が ん	0	2	0	0	0	0																																																																																																											
肝 が ん	-	-	-	2	0	1																																																																																																											
潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0																																																																																																											
計	561	605	578	585	537	468																																																																																																											
	13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	各病院	ネットワーク実績 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>開示施設数</td><td>17</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数（累計）</td><td>28,732</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>44,142</td><td>52,030</td><td>59,871</td></tr><tr><td>開示件数（新規）</td><td>4,357</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>5,776</td><td>7,888</td><td>8,226</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td><td>129</td><td>123</td></tr><tr><td> 病院</td><td>13</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td> 診療所</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td><td>78</td><td>76</td></tr><tr><td> 保険薬局</td><td>27</td><td>25</td><td>29</td><td>31</td><td>31</td><td>27</td></tr><tr><td> 訪問看護ステーション</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td> 介護福祉施設</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。							区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開示施設数	17	16	19	19	20	20	開示件数（累計）	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871	開示件数（新規）	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226	参照施設数	126	118	123	129	129	123	病院	13	13	15	16	16	16	診療所	76	72	73	77	78	76	保険薬局	27	25	29	31	31	27	訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3	介護福祉施設	2	1	1	1	1	1	A	第3期中期目標期間において、ネットワーク参画医療機関が一体となって、連携医療機関等に参画の呼びかけ及び広報を行っており、この結果、令和4年4月に静岡市清水区の桜ヶ丘病院が開示施設として参画した。 開示施設数及び件数ともに順調に数を伸ばし、地域の医療機関における診療情報共有に寄与した。																															
				区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																							
開示施設数	17	16	19	19	20	20																																																																																																											
開示件数（累計）	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871																																																																																																											
開示件数（新規）	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226																																																																																																											
参照施設数	126	118	123	129	129	123																																																																																																											
病院	13	13	15	16	16	16																																																																																																											
診療所	76	72	73	77	78	76																																																																																																											
保険薬局	27	25	29	31	31	27																																																																																																											
訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3																																																																																																											
介護福祉施設	2	1	1	1	1	1																																																																																																											

中期目標		中期計画		年度計画		No		行動計画		業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																																																										
												本	説明																																																																																																																									
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療		(3) 県立病院が重点的に取り組む医療		(3) 県立病院が重点的に取り組む医療		—		—		—			—																																																																																																																									
県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。 県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。		県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。 ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。 イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。		ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。 イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。		—		—		—			—																																																																																																																									
		ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。		ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。		14		各病院		児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>8</td><td>7</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>総合→こども</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td></tr></table> こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr></table> こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>9</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td></tr></table>		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	8	7	3	3	2	2	総合→こども	13	13	13	9	9	6	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	0	1	2	2	3	2	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	9	6	4	8	8	12	A		3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を5名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、令和5年度、精神科患者の身体合併症に対応した病棟を開棟した。 病院間の連携を図るため、こころの医療センターから総合病院へ精神科医を配置している。 また、こども病院から総合病院に母体搬送が行われるなど、同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られた。 今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進めている。																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
こども→総合	8	7	3	3	2	2																																																																																																																																
総合→こども	13	13	13	9	9	6																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
こころ→総合	0	1	2	2	3	2																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
こころ→総合	9	6	4	8	8	12																																																																																																																																
						15		総合・こころ・こども		(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 入院患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>エイズ</td><td></td><td></td><td colspan="4">非公開</td></tr><tr><td>結 核</td><td>111</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>54</td></tr></table> 移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>腎移植</td><td>14</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>17</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>33</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td></tr></table> (こども) 造血幹細胞移植実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td></tr></table> ・腎臓移植は、令和2年度以降は行われていない。 アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	エイズ			非公開				結 核	111	92	95	85	48	54	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	腎移植	14	17	12	10	13	12	造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16	強角膜片作成	2	3	1	0	2	1	計	33	34	26	22	29	29	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	1	1	0	1	1	1	こども	4	3	2	2	2	3	S		(総合) 第3期計画期間中、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めた。 特に、新型コロナウイルス第8波の拡大により、令和4年12月以降は最大24床(本館6階 16床)を確保していたが、それを大きく上回る患者を受け入れることとなった。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和5年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。 (こころ) 県の要請により新型コロナウィルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から令和5年5月まで運用し、新型コロナウイルス陽性患者9名を受け入れた。 (こども) 新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関の指定を受け、継続して受入病床を確保し、重症・中等症Ⅱの患者を中心に受け入れた。県内医療機関からの患者受入の相談に対応する等、小児感染症対応の最後の砦としての役割を担っていた。 また、移植医療に関しては、適用患者の数に変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいた。 その他、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施し、アレルギー疾患拠点病院として、地域のアレルギー疾患医療のレベルアップを図った。	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
エイズ			非公開																																																																																																																																			
結 核	111	92	95	85	48	54																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
腎移植	14	17	12	10	13	12																																																																																																																																
造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16																																																																																																																																
強角膜片作成	2	3	1	0	2	1																																																																																																																																
計	33	34	26	22	29	29																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																																
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																																
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																																
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																																
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																
総 合	1	1	0	1	1	1																																																																																																																																
こども	4	3	2	2	2	3																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																																								
						本	説明																																																							
					アレルギー教室開催実績（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table> 新型コロナウイルス感染症受入体制（令和5年時点）<table><tr><th></th><th>病床数</th><th>時 期</th><th>備 考</th></tr><tr><td>総 合</td><td>24床</td><td>令和4年12月～</td><td>6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）</td></tr><tr><td>こころ</td><td>4床</td><td>令和2年4月～</td><td>2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）</td></tr><tr><td>こども</td><td>8床</td><td>令和5年7月～</td><td>PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	3	3	1	2	2	3		病床数	時 期	備 考	総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）	こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）	こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
件数	3	3	1	2	2	3																																																								
	病床数	時 期	備 考																																																											
総 合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床（※令和5年5月から一般病棟で受入れ）																																																											
こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用（※令和5年5月より解除）																																																											
こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU																																																											
	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	16～18	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 総合 患者サポートセンター退院調整件数（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>6,810</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td><td>6,661</td><td>6,618</td></tr></table> 退院支援関係診療報酬算定件数実績（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>退院調整加算（旧）</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>退院支援加算1（新）</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>入退院支援加算1※</td><td>4,816</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td><td>5,890</td><td>6,004</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション指導料</td><td>530</td><td>1,113</td><td>3,529</td><td>2,957</td><td>2,839</td><td>2,979</td></tr><tr><td>計</td><td>5,346</td><td>5,100</td><td>8,932</td><td>8,965</td><td>8,729</td><td>8,983</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	退院調整加算（旧）	—	—	—	—	—	—	退院支援加算1（新）	—	—	—	—	—	—	入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を行っている。平均在院日数の短縮に向け、より積極的に行うこととしている。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
退院調整加算（旧）	—	—	—	—	—	—																																																								
退院支援加算1（新）	—	—	—	—	—	—																																																								
入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004																																																								
退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979																																																								
計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983																																																								
				リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。 こころ リハビリテーション活動実施件数（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>5,494</td><td>4,483</td><td>5,427</td><td>4,552</td><td>4,010</td><td>3,969</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>6,023</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td><td>1,875</td><td>2,595</td></tr><tr><td>計</td><td>11,517</td><td>8,945</td><td>8,080</td><td>5,949</td><td>5,885</td><td>6,564</td></tr></table> 訪問看護実施件数（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,996</td><td>3,704</td><td>3,841</td><td>3,643</td><td>3,726</td><td>4,121</td></tr><tr><td>（うち複数訪問）</td><td>31</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td><td>71</td><td>57</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57	B	新型コロナウイルス感染拡大により、病棟内へのウイルスの持ち込みを懸念して感染対策を優先し、入院患者と外部の者との接触を控えているため、入院患者に対する病棟外作業療法や外来デイケア活動は制限されることとなり、実施件数が大幅に減少している。 感染が縮小した時期に参加者を最大10人に絞った形でのショートケア活動を再開したが、新型の変異株の流行もあって、休止と再開を繰り返した。令和4年度からは徐々に再開しており、今後、件数の回復が見込まれる。 訪問看護については、ほぼ一定の件数で推移しているが、令和4年度には複数の職種の職員が患者の生活支援に当たる複数訪問を積極的に実施し、令和5年度には積極的に訪問を行いコロナ前の実績を上回った。 令和5年度からは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染対策を継続しつつ、デイケア・リハビリの活動内容をコロナ期以前の状態に回帰し、参加者の増加を図っていく。							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969																																																								
デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595																																																								
計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121																																																								
（うち複数訪問）	31	38	46	37	71	57																																																								
				リハビリ実施実績（単位：件）<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>17,309</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>15,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>6,039</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,901</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>31,249</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>—</td></tr></table> こども	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—	S	第3期中期目標期間を通じてリハビリ実施実績は大幅に増加し、令和5年度の件数を期間当初の令和元年度と比較すると131%の件数になった。主な要因は、療法士の増員による効率的なリハビリの実施である。 作業療法に関しては、令和3年度に増員された療法士に対し、集中的に研修を行うことで入院患者への対応時期を前倒しし、実施件数の増加につなげており、4年度以降も体制を継続した。 また、理学療法に関して、令和4年度からPICUでの早期離床・リハビリテーション加算（入室後14日間に500点/人/日）が算定可能となったが、3年度からチームを組んで準備及び実働をしていたことにより、4年5月には施設基準要件を満たし早い段階での算定が可能となった。4年度、PICU入室患者の全例に早期離床の介入ができており、PICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加した。 今後もリハビリ実施件数を維持するとともに、さらなる質の向上を図っていく。																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																							
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																							
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—																																																							
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—																																																							
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																							

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）		第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																										
								本	説明																																									
		オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合	遺伝診療科受診者数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>101</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table> 【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td><td>94</td></tr></table> 【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	101	146	227	233	270	266	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	38	46	46	94	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	227	233	270	266	A	臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置したゲノム医療センターでは、令和3年度には臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。がんゲノム医療拠点病院の選定では、東海北陸地域で5機関選定のところ、施設認定の選考において5番目となる高い評価を受けたものの、最終的には、地理的要因が考慮され、選定から外れている。 遺伝診療に関する診療は増加傾向にあり、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数についても増加している。特に静岡がんセンターの連携病院（中部地区で唯一の施設）として令和2年度から実施しているエキスパートパネルの件数は、増加している。							
	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度		4年度	5年度																																										
	受診者数	101	146	227	233		270	266																																										
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																														
受診者数	38	46	46	94																																														
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																														
受診者数	227	233	270	266																																														
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。これらを含む多様な精神疾患や身体合併症など精神科医療に対する要望等を受け、総合的に必要な医療を受けられる体制の整備を進める。 また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20～22	【総】・精神科身体合併症病棟においては、総合的な医療機能を活かし、精神障害者のあらゆる身体合併症への高度医療を提供する。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合 こころ	脳FDG-PET (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>実施件数</td><td>161</td><td>160</td><td>128</td><td>142</td><td>149</td><td>162</td></tr></table> 認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>認知症ケア</td><td>8,306</td><td>7,163</td><td>6,202</td><td>5,246</td><td>5,194</td><td>6,433</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>－</td><td>1,740</td><td>2,316</td><td>1,671</td><td>1,284</td><td>1,161</td></tr><tr><td></td><td></td><td>8,903</td><td>8,518</td><td>6,917</td><td>6,478</td><td>7,594</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	実施件数	161	160	128	142	149	162	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	認知症ケア	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433	精神科リエゾンチーム	－	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161			8,903	8,518	6,917	6,478	7,594	A	第3期中期目標期間において、令和4年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に基づいて、改修工事を実施した。 脳疾患（てんかん、認知症）及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は年間150件程度で推移した。 認知症ケア加算と精神科リエゾンチーム加算の算定件数の計については、令和3年度、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、令和5年度においては増加した。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度		4年度	5年度																																											
実施件数	161	160	128	142		149	162																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																												
認知症ケア	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433																																												
精神科リエゾンチーム	－	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161																																												
		8,903	8,518	6,917	6,478	7,594																																												
						こころ	老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td><td>483</td><td>387</td><td>330</td><td>340</td><td>361</td><td>288</td></tr></table> 認知症入院患者件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>認知症入院患者</td><td>9</td><td>6</td><td>6</td><td>12</td><td>17</td><td>12</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	老年期こころと物忘れ外来実施件数	483	387	330	340	361	288	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	認知症入院患者	9	6	6	12	17	12	A	第3期中期目標期間中の認知症を主たる要因として入院となった患者数は62人、物忘れ外来の件数は2,189件である。 今後も相談体制を維持し、高齢化社会が進む中での相談・診療の窓口としての役割を継続していく。													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度		5年度																																											
老年期こころと物忘れ外来実施件数	483	387	330	340	361	288																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																												
認知症入院患者	9	6	6	12	17	12																																												
						こころも	発達障害児を持つ保護者を対象にした、医師や保育士によるペアレント・トレーニングについて、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していなかったが、令和5年度に新プログラムを開発し再開した。 中期計画期間中、新生児退院診察を実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。 発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>発達小児科外来延患者数</td><td>4,014</td><td>4,233</td><td>4,272</td><td>4,439</td><td>4,051</td><td>4,398</td></tr><tr><td>ペアレントトレーニング等件数</td><td>10</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td></tr></table> 新生児包括外来実績 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>低出生体重児への発達フォロー件数</td><td>207</td><td>207</td><td>175</td><td>184</td><td>166</td><td>164</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	発達小児科外来延患者数	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,398	ペアレントトレーニング等件数	10	10	0	0	0	3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	低出生体重児への発達フォロー件数	207	207	175	184	166	164	A	発達小児科による患者家族へのペアレントトレーニングは、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度以降開催できなかったが、保育士及び心理士とともに、養育者が参加しやすく、かつ継続的な支援を可能にする新プログラムの開発を進め、令和5年11月に再開した。令和5年度は3件実施し、今後も月1回の頻度で継続の予定である。 発達小児科の外来延患者数は、第3期中期目標期間中、年間4,000人以上を維持し、発達障害へのニーズの高まりに対し、現行体制で可能な限りの取組を行った。 また、新生児科では、新生児包括外来における低出生体重児への発達フォローを継続して実施した。						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																												
発達小児科外来延患者数	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,398																																												
ペアレントトレーニング等件数	10	10	0	0	0	3																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																												
低出生体重児への発達フォロー件数	207	207	175	184	166	164																																												

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																												
													本	説明																																																																											
		キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	各病院 ・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。(No.15再掲) ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る ・【子】No.59	移行期医療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>610</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>918</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>－</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>31</td></tr></table> 関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>1</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>5</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td></tr></table> ※ 令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している 移行期医療推進協議会の開催 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>0</td></tr></table> 移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>－</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>7</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918	こども→こころ	－	19	18	15	28	31	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	－	1	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	7	S	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合により、患者情報の病院間の相互参照が可能となったことから、今後、更なる医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和2年2月に開設した成人先天性心疾患科では、こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っている。 第3期中期目標期間において、令和元年度を基準に増加傾向を維持している。 (こころ) こころの医療センターとこども病院の精神科医師が合同症例検討会を令和元年度までは定期的を実施していた。令和2年以降は新型コロナウイルスの流行もあり、個々の病院の感染対策を優先して個別のカンファレンスを控えたこともあつて開催が見送られているものの、必要に応じて患者や症例の相談を電話により行っている。 令和4年度に機構において「県立病院機構精神科あり方ワーキンググループ」を立ち上げて検討した結果、各病院の特性を活用した精神科医療を実施していくこととなり、令和5年度に地域や時代のニーズに応えた当院の医療提供体制の整備方針の検討を進めた。 (こども) 移行期医療については、令和2年度から移行期医療支援センター事業を県から受託し、移行期医療支援体制の整備に取り組んだ。院内においても移行期医療に関する部署を組織化し、静岡市医師会との重症心身障害児の移行のためのカンファレンスや患者の自立支援など、小児医療機関のモデルケースとなるよう取組を進めた。 医療的ケア児については、令和2年11月に指定障害福祉サービスによる短期入所事業所の指定を受け、これまで6人(延人数)を受け入れた。今後も、受入体制の充実を図り、医療的ケア児のレスパイト対応等に取り組んでいく。 また、関係福祉機関、教育機関等における講習や会議に、医師や看護師が出席した。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918																																																																																			
こども→こころ	－	19	18	15	28	31																																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0																																																																																			
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2																																																																																			
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4																																																																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
移行期医療推進協議会の開催	－	－	－	－	1	0																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																				
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	－	11	18	9	7																																																																																				

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																																																
								本	説明																																																																																																															
		ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システム統合をはじめとした医療情報の共有化に取り組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システム統合を実施し、セキュリティを強化した上で、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上を目指す。	施設及び機器等の整備状況 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>16,132</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>685</td><td>4,813</td></tr><tr><td>こころ</td><td>992</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>390</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,764</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>282</td><td>1,303</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,304</td><td>831</td></tr><tr><td>合計</td><td>18,887</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>4,271</td><td>7,338</td></tr></table> (単位：百万円) <table><tr><th colspan="8">器械備品等</th></tr><tr><th></th><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th></tr><tr><td>総合</td><td>6,788</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>1,724</td><td>3,356</td></tr><tr><td>こころ</td><td>169</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>24</td><td>84</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,834</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>454</td><td>2,339</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,166</td><td>45</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,791</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,368</td><td>5,824</td></tr></table> 医療情報システム統合の実施状況 ・質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。	区 分	施設整備							第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813	こころ	992	139	246	5	0	0	390	こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303	本部	0	0	78	395	358	3,304	831	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338	器械備品等									第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356	こころ	169	31	31	8	14	24	84	こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339	本部	0	0	44	0	1	1,166	45	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824	各病院・本部（経営）	S	第3期中期計画においては以下の施設整備等を実施した。引き続き、経営状況を考慮しながら適切な施設整備等を進める。 (総合) 先端医学棟等への移転に伴う既存棟跡地改修及び耐震補強を行うとともに、電話交換機やナースコール等の設備更新を行い、病院機能の向上に繋がった。 (こころ) 院内トイレ及び昇降機改修を行い、患者の利便性向上に繋がった。 (こども) 本館の薬剤・検査・放射線部門等の改修を行うとともに、昇降機や外来天井の改修を行い、病院機能の向上に繋がった。また、北5病棟改修において病棟内空調のクリーン度を高め、小児がん拠点病院の指定更新に繋がった。 (本部) 令和3年にこころの医療センターにサーバー棟を整備し、3病院の医療情報システムの統合や医療情報の共有化に繋がった。
	区 分	施設整備																																																																																																																						
		第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																																
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813																																																																																																																	
こころ	992	139	246	5	0	0	390																																																																																																																	
こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303																																																																																																																	
本部	0	0	78	395	358	3,304	831																																																																																																																	
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338																																																																																																																	
器械備品等																																																																																																																								
	第2期累計 (実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																																	
総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356																																																																																																																	
こころ	169	31	31	8	14	24	84																																																																																																																	
こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339																																																																																																																	
本部	0	0	44	0	1	1,166	45																																																																																																																	
合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824																																																																																																																	
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—	—																																																																																																																	
	県立総合病院	(ウ) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 455,056人 入院患者 227,436人	25	総合	入院・外来患者数 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>233,305</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>211,603</td><td>227,436</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>6,406</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>3,977</td><td>-</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>436,699</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>457,778</td><td>455,056</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436	(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-	外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056	A	第3期中期目標期間において、コロナ禍における令和2年度から令和4年度において、入院患者数は、新型コロナウイルス感染症・VRE病棟開棟(令和4年度6月)の影響により、目標値を下回ったが、令和5年においては令和2年度以前の水準まで回復した。 一方、外来患者数については、令和4年度、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新し、増加が続いている。																																																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																	
入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436																																																																																																																	
(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-																																																																																																																	
外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056																																																																																																																	
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU／ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	26	総合	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU／ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。 CCU／ICU稼働率 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>96.3</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>853</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.5</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働率(%)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853	1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	A	第3期中期目標期間において、コロナ禍における令和2年度から令和4年度において、ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、新型肺炎患者の重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行っていた。 令和5年度は制限はなくなり、稼働率の向上及び特定集中治療室管理料の算定率向上に努めた。																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																		
稼働率(%)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3																																																																																																																		
入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853																																																																																																																		
1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5																																																																																																																		
			②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	27	総合	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算 <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>28</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	62	83	102	92	49	8	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	16	35	28	32	20	28	A	地域の医療機関等との連携により、バスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。																																																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																		
算定件数	62	83	102	92	49	8																																																																																																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																		
算定件数	16	35	28	32	20	28																																																																																																																		

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)								第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																																																																												
								本	説明																																																																																																																																																			
								A	糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>91</td></tr></table> (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>177</td></tr></table>								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	145	285	123	67	48	91	区 分	3年度	4年度	5年度	腎代替療法指導管理料	211	164	177	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 第3期中期目標期間において、ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は着実な増加傾向が見られる。																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																						
算定件数	145	285	123	67	48	91																																																																																																																																																						
区 分	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																									
腎代替療法指導管理料	211	164	177																																																																																																																																																									
								A	ハイブリッド手術室稼動状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>563</td><td>400以上</td></tr><tr><td>TAVI 実施件数 ※上記の内数</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>84</td><td>－</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>108</td><td>－</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>14</td><td>－</td></tr></table> 参考 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>P C I</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>333</td><td>274</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>282</td></tr></table>								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上	TAVI 実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－	Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	P C I	450	368	363	349	333	274	アブレーション	253	284	267	305	262	282	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 第3期中期目標期間において、ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は着実な増加傾向が見られる。																																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																																					
ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上																																																																																																																																																					
TAVI 実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	－																																																																																																																																																					
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	－																																																																																																																																																					
Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	－																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																						
P C I	450	368	363	349	333	274																																																																																																																																																						
アブレーション	253	284	267	305	262	282																																																																																																																																																						
・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。								A	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用								①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。																																																																																																																																											
									A	がん手術件数 (単位：件、％) <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>347</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>787</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>366</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>264</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>134</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>169</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>448</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,241</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,509</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>3,217</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,524</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,931</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>39.5</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上								区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	胃がん	340	366	351	351	392	347	大腸がん	687	696	759	776	732	787	肝がん	366	260	328	255	232	264	肺がん	134	194	213	180	184	169	乳がん	449	511	440	454	441	448	その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	内視鏡検査・処置 (単位：件) <table><tr><th>年度</th><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3年度</td><td>10,540</td><td>2,749</td><td>420</td><td>350</td><td>54</td><td>14,113</td></tr><tr><td>4年度</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr><tr><td>5年度</td><td>9,903</td><td>2,767</td><td>410</td><td>281</td><td>54</td><td>13,415</td></tr></table> 放射線治療 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>15,772</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>980</td><td>978</td><td>1,000</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。						年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000	第3期中期目標期間において、がん手術件数については、他施設での対応が困難な難治症例の受入も行っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け令和元年度を最高に令和2年度以降はやや減少している。 放射線治療件数については、リニアックを3台体制による高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療を実施し、目標値とほぼ同程度の件数となった。				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																						
胃がん	340	366	351	351	392	347																																																																																																																																																						
大腸がん	687	696	759	776	732	787																																																																																																																																																						
肝がん	366	260	328	255	232	264																																																																																																																																																						
肺がん	134	194	213	180	184	169																																																																																																																																																						
乳がん	449	511	440	454	441	448																																																																																																																																																						
その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509																																																																																																																																																						
がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524																																																																																																																																																						
手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931																																																																																																																																																						
がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5																																																																																																																																																						
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																																						
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																																						
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																																						
3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																																						
4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																																						
5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415																																																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																																					
件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000																																																																																																																																																					
								S	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。								第3期中期目標期間中の外来化学療法の件数については、常に目標を上回る高い水準で推移している。施設面等でも外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど患者の療養環境や利便性を大幅に向上させた。 また、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し、乳がん患者を対象に治療を開始している。これは、乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上及び対象患者のQOLの向上が図られている。																																																																																																																																											
									S	外来化学療法加算 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,854</td><td>13,862</td><td>12,000以上</td></tr></table>								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上																																																																																																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																																					
件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上																																																																																																																																																					

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）		第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																																	
									本	説明																																																	
					32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	総合	緩和ケアチーム介入症例数（単位：件）		S	第3期中期目標期間中、緩和ケア診療加算算定件数は、高い水準で推移している。 緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。																																																
								<table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>383</td></tr></table>				区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	418	527	482	548	396	383																																		
								区分	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
症例数	418	527	482	548	396	383																																																					
<table><tr><td>区分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,372</td></tr></table>		区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372																																												
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372																																																					
					33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	総合	がん相談件数（単位：件）		A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 第3期中期目標期間において、がん相談件数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、令和元年度を最高に実績を下回っているものの、がん患者が相談しやすい環境は整っている。																																																
								<table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,241</td></tr></table>				区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241																																		
								区 分	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241																																																					
					34	④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	総合	ロボット支援手術件数（単位：件）		S	ロボット支援手術(ダ・ヴィンチ使用手術)は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 ロボット支援手術件数については、第3期中期目標期間において、消化器外科及び心臓血管外科の手術件数が増加しており、目標値を大きく上回っている年度が多くある。 令和4年度から日本製のロボットHINOTORIを導入し、3台体制で行っており、ロボット支援手術機器の運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。 令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援施術の普及、発展、技術の向上に貢献している。																																																
								<table><tr><td>診療科</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>5年度目標</td></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>112</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>132</td><td>136</td><td>—</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>18</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>18</td><td>31</td><td>—</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>83</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>163</td><td>222</td><td>—</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>213</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>328</td><td>407</td><td>230以上</td></tr></table>				診療科	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—	婦人科	18	25	23	25	18	31	—	消化器外科	83	70	82	92	163	222	—	心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—	計	213	199	243	261	328	407	230以上
								診療科	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																										
泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—																																																				
婦人科	18	25	23	25	18	31	—																																																				
消化器外科	83	70	82	92	163	222	—																																																				
心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—																																																				
計	213	199	243	261	328	407	230以上																																																				
<table><tr><td colspan="2">ロボット支援手術者数（単位：人）</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>11</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td><td>21</td><td>38</td></tr></table>		ロボット支援手術者数（単位：人）		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	11	12	16	23	21	38																																										
ロボット支援手術者数（単位：人）																																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
人数	11	12	16	23	21	38																																																					
		・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。		○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の運用開始 ①認知症や精神科患者の身体合併症に対応する病棟の開棟(精神科身体合併症病棟)など医療提供体制の充実	No.20		総合	こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年4月から精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟した。 加えて令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託した。		A	静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託し、24時間365日対応可能な体制を整備した。精神疾患により他施設、一般病床での対応が困難な患者に対し、一般診療科と精神科の連携を図り、精神科救急医療施設として対応し地域医療に貢献した。																																																
				35																																																							

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																									
						本	説明																																															
			・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	36	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	36	総合	手術件数 (単位：件)							A	第3期中期目標期間において、手術件数およびHCU延患者数については、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ・VREの発生等の影響もあり、令和2年度から令和4年度にかけて減少していたが、令和5年度においては令和元年度の水準まで増加した。 令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部の施設及び機器の一部が損傷し使用ができなくなった。このため、病理の迅速検査をこども病院に依頼、その他の検査は業者委託を行うことで通常診療に影響のないよう対応した。																																						
			<table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>9,327</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,160</td><td>9,459</td><td>9,400以上</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度	毎年度目標	手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上																											
			区 分		30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																									
手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上																																															
<table><tr><td colspan="8">HCU延患者数 (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>人数</td><td>6,872</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td><td>5,669</td><td>6,537</td><td></td></tr></table>							HCU延患者数 (単位：人)								区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537																									
HCU延患者数 (単位：人)																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537																																																
			・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	37	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実	37	総合	医師の変則勤務試行状況 (単位：％)							A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和5年度の利用率は62.7%となり、第3期中期目標期間において、増加傾向が見られた。																																						
			<table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>該当者（人）</td><td>1,717</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td><td>1,864</td><td>1,909</td><td></td></tr><tr><td>利用者（人）</td><td>966</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td><td>1,176</td><td>1,197</td><td></td></tr><tr><td>利用率（％）</td><td>56.3</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td><td>63.1</td><td>62.7</td><td></td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度		該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909		利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197		利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7												
			区 分		30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																										
該当者（人）	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909																																																
利用者（人）	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197																																																
利用率（％）	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7																																																
救急科医師9名体制で稼働																																																						
				38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	38	総合	救急車受入率 (単位：％)							A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 第3期中期目標期間において、救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、増加傾向が見られる。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。																																						
			<table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>当番日</td><td>97.1</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>93.3</td><td>92.0</td><td></td></tr><tr><td>全 日</td><td>97.4</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>94.4</td><td>93.4</td><td>93.3</td><td></td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度		当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0		全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3																				
			区 分		30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																										
当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0																																																
全 日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3																																																
特殊疾病患者受入数 (単位：件)																																																						
<table><tr><td>疾病名</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>14</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td><td>14</td><td>21</td><td></td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>378</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td><td>410</td><td>480</td><td></td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>30</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td><td>60</td><td>64</td><td></td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>186</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td><td>236</td><td>236</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>608</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td><td>720</td><td>801</td><td></td></tr></table>							疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		重症熱傷	14	11	9	4	14	21		重症外傷	378	380	431	335	410	480		急性中毒	30	46	26	39	60	64		病院外心停止	186	174	201	182	236	236		計	608	611	667	560	720	801	
疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
重症熱傷	14	11	9	4	14	21																																																
重症外傷	378	380	431	335	410	480																																																
急性中毒	30	46	26	39	60	64																																																
病院外心停止	186	174	201	182	236	236																																																
計	608	611	667	560	720	801																																																
ドクターカー出動状況 (単位：件)																																																						
<table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td><td>9</td><td>13</td><td></td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度		件数	12	12	8	11	9	13																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																
件数	12	12	8	11	9	13																																																
【参考】救急患者数 令4：11,245人、令5：11,813人 【参考】救急車受入件数 令4：6,144件、令5：6,443件																																																						

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5)実績 自己評価																																																						
							本	説明																																																						
		・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度(入院・外来)の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	総合	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>一般病棟</td><td>93.9</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.2</td><td>82.6</td><td>85.4</td><td>90以上</td></tr><tr><td>全体</td><td>89.8</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>78.0</td><td>80.5</td><td>－</td></tr></table>		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	一般病棟	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上	全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	－	B	第3期中期目標期間において、コロナ禍における令和2年度から令和4年度において、一般病棟の一部を新型コロナウイルス感染症専門病棟・VRE専門病棟(令和4年度)として運用しており、一般病床稼働率は目標値90%を下回った。 新型コロナウイルス・VRE感染患者が一時的に激増し、令和2年度から4年度にかけて稼働率は落ち込んだが、重症感染患者を数多く受け入れており、地域医療に大きく貢献した。																												
	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度		4年度	5年度	毎年度目標																																																					
	一般病棟	93.9	91.1	84.8	88.2		82.6	85.4	90以上																																																					
全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	－																																																							
	【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ロボット支援手術件数 (ダヴィンチ等使用手術件数)	－	－	－	－	－																																																							
	県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 39,647人 入院患者 55,551人	40	－	こころ	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>57,217</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>52,898</td><td>55,551</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>42,454</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>36,865</td><td>39,647</td></tr></table>		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551	外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647	B	第3期中期目標期間中の患者数は期中に新型コロナウイルスの流行があり、感染拡大防止に努めながらの病院運営となったため、令和元年度以降患者数の減少が続いたが、令和4年度以降は回復傾向となった。引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																							
入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551																																																							
外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647																																																							
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者を常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	こころ	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>全相談件数</td><td>2,718</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,063</td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>1,482</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,517</td></tr></table> 時間外における救急診療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>件 数</td><td>331</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>249</td><td>300以上</td></tr></table>		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	件 数	331	390	335	313	252	249	300以上	A	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営し、幅広く相談に対応している。 第3期中期目標期間中の精神科救急ダイヤルの件数の推移であるが、令和2年度から3年度にかけて、緊急を要しない連絡が減ったことから件数が減少した。 時間外における救急診療件数については、令和4年度実績は下回ったものの、周知に努め中期目標期間中は、目標値を上回る水準で推移している。 今後はより一層精神科救急ダイヤル及び夜間診療体制の周知・普及に努めつつ、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を維持していく。																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																								
全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063																																																								
うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																							
件 数	331	390	335	313	252	249	300以上																																																							
				42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	こころ	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。 新規患者率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南 2</td><td>40%以上</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td><td>72.0</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北 2</td><td>40%以上</td><td>72.4</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td><td>59.0</td></tr></table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>施設基準</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>救 急</td><td>南 2</td><td>60%以上</td><td>73.0</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td><td>86.9</td></tr><tr><td>救 急</td><td>北 2</td><td>60%以上</td><td>85.4</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td><td>77.9</td></tr></table>		区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急	南 2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	救 急	北 2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救 急	南 2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	救 急	北 2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	A	第3期中期計画期間中、新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率はいずれも基準を満たした。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。
区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																							
救 急	南 2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0																																																						
救 急	北 2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0																																																						
区 分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																							
救 急	南 2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9																																																						
救 急	北 2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9																																																						

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																		
						本	説明																																																																			
		・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療 (クロザピン、m－ECT (修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療 (心理教育、家族教室等)) への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m－ECT (修正型電気けいれん療法) を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	こころ	m－ECT の治療を令和5年度も継続して積極的に実施している。 m－ECT 実施件数 (単位：人)		A	積極的にmECTによる治療を実施し、概ね目標である700件を達成し。mECT治療を施すため他院患者を受入れており、今後も当院におけるmETC治療の積極的な活用を継続していく。																																																																
							<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>延件数 (件)</td><td>832</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>715</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>66</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>62</td><td>—</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>58</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>56</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>43</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>48</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>4</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>				区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	延件数 (件)	832	870	737	827	665	715	700以上	実患者数	66	70	59	56	54	62	—	中部地区	58	62	55	53	51	56	—	(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—	東部地区	3	5	3	1	2	5	—	西部地区	4	2	1	2	1	1	—	その他	1	1	0	0	0	0	—
							区 分	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																										
延件数 (件)	832	870	737	827	665	715	700以上																																																																			
実患者数	66	70	59	56	54	62	—																																																																			
中部地区	58	62	55	53	51	56	—																																																																			
(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—																																																																			
東部地区	3	5	3	1	2	5	—																																																																			
西部地区	4	2	1	2	1	1	—																																																																			
その他	1	1	0	0	0	0	—																																																																			
				44	①先端薬物療法 (クロザピンなど) を積極的に実施する。	こころ	平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和5年末現在91名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。 クロザピン投与患者数 (単位：人)		A	令和元年度の投与患者数は60人であったが、令和5年度末時点では91人に投与を実施し、目標とした75人を大きく上回っている。 また、実施にあたっては、院内で患者の副作用のモニタリングを行い薬品の適正使用に取組み、治療効果と安全性の向上に努めている。 クロザピン治療を実施出来る医療機関は、精神科病床を有する病院の血液内科医と連携することが条件となっているため、静岡市立病院のみとの提携となっていたが、今後は、県立総合病院との連携も図っていく。																																																																
							<table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>55</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>91</td><td>75</td></tr></table>				項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	患者数	55	60	65	73	83	91	75																																																
							項目	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																										
患者数	55	60	65	73	83	91	75																																																																			
				45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	こころ	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 心理教育参加者数 (単位：人)		A	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い外部活動が縮小したが、徐々に活動を再開し令和5年度にはコロナ前の実績に近づいてきている。 感染対策を継続しつつ、効率的な研修の実施に努め、高度医療への積極的な取組の実施に対する意識の高揚に努めていく。																																																																
							<table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>210</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>142</td></tr></table> 心理教育研修会参加者数 (単位：人)				項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	210	154	86	93	83	142																																																		
							項目	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																											
参加者数	210	154	86	93	83	142																																																																				
<table><tr><th>項目</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>136</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>26</td></tr></table>		項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	136	66	35	29	0	26																																																											
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																				
参加者数	136	66	35	29	0	26																																																																				
		・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア (ACT) チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	こころ	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ28名の支援活動を実施している。 ACT 実施状況		A	令和元年度から令和4年度にかけて患者の地域支援を継続しているが、新型コロナ感染症の影響を受けた期間中には、支援対象となる患者が増えなかったこともあり、ほぼ一定の患者数で推移した。5年度においては、コロナ感染症の5類移行により影響が低下することを踏まえ、患者の地域移行を進め、関係する公的機関等と連携しながら、在宅医療による支援を行った。																																																																
							<table><tr><th></th><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>11人</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>入院</td><td>0人</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">活動状況</td><td>外来</td><td colspan="6" rowspan="2">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td></tr><tr><td>入院</td></tr></table>						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	対象者	外来	11人	4	4	4	4	3	入院	0人	2	1	1	1	3	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院																																
											30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																										
対象者	外来	11人	4	4	4	4	3																																																																			
	入院	0人	2	1	1	1	3																																																																			
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																								
	入院																																																																									
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与		47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	こころ	令和5年度については、9月末現在で、2名の退院、1名の新規入院があった。 医療観察法病棟の稼働状況 (単位：床・%)		A	令和元年度の稼働率は低かったものの、令和2年度以降は高い稼働率を維持し、12床が満床となる状況が続いている。令和3年度以降は特定病床での受入が続く稼働率が100%を超えている。																																																																
							<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>病床数 (床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率 (%)</td><td>96.0</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td></tr></table>				区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	病床数 (床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率 (%)	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																																											
							区 分	30年度			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																											
病床数 (床)	12	12	12	12	12	12																																																																				
病床利用率 (%)	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																																																																				

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）		第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																	
										本	説明																
						48	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。	こころ	A	第3期期間中に、当院からの総合病院へ精神科医を、身体合併症の精神科リエゾン機能がより強化された。 さらに、「県立病院機構精神科あり方ワーキンググループ」を開催し、令和4年度中に県立3病院それぞれの精神科医療のあり方を検討した。令和5年度はこの検討結果を踏まえ、時代のニーズに応えた当院の医療提供体制のあり方の検討に取り組んでいる。																
						49	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>84.0</td><td>85以上</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上	こころ	B	令和2年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響及び他病院で受診困難な患者を当院で受け入れるケースが増加し、4床室の受入れ調整が困難になり、入院患者数が伸びず、病床稼働率は目標値を下回った。 令和5年度は感染対策は継続して行きつつ、効率的な病床運営を行い、稼働率の上昇に努めた。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																				
稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上																				
						—	—	—	—		—																
							県立こども病院		ウ)	50	県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取り組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 121,675人 入院患者 75,900人	こども	B	第3期中期目標期間における入院患者数について、令和元年から2年にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少したが、その後は徐々に回復した。 外来患者数についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、令和3年度以降下降しているもののコロナ以前の数値を超える実績となった。 新型コロナウイルス感染症により外来患者数が減少した対策の一つとして、オンラインによる外来診療体制(No60)を全国に先駆けて構築した。 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めている。													

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)								第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																																																																																																			
																本	説明																																																																																																																																																																		
						51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の活用のために職員を研修に派遣する。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル2室化工事及び血管撮影装置を設置する。	こども	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。 今後も効果的な運用を継続していく。 心臓カテーテル治療実績(単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>5 年度目標</th></tr><tr><td>実施件数</td><td>179</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>245</td><td>230以上</td></tr></table> ハイブリッド手術実績(単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td></tr></table> CCU稼働率(単位：人、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>3,063</td><td>3,176</td><td>3,021</td><td>3,011</td><td>3,994</td><td>3,938</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>83.9</td><td>86.8</td><td>82.8</td><td>71.7</td><td>91.2</td><td>89.7</td></tr></table> 循環器センターにおける研修医の人数(単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>5</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td><td>12</td></tr></table> 小児用補助人工心臓装置の使用状況(単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> 心エコー画像遠隔診断実績(単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>								区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	5 年度目標	実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	件数	8	5	8	6	4	8	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938	病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	人数	5	9	7	9	8	12	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	件数	1	0	0	0	0	0	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 また、研修医も着実に受け入れ、小児心疾患治療の先導的施設として、高度な循環器疾患医療の専門医の育成にも継続して努めた。 ハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療はコロナ禍でも例年並みの水準を維持し続け、令和5年度には245件と大幅に件数を伸ばした。令和4年度に経皮的肺動脈弁置換術(TPVI) 初期導入13施設の一つに指定され、令和5年3月に県内初の治療を行い、令和5年度も着実に件数を伸ばした。 当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであることから、令和3年度、高機能な血管撮影装置に更新し、より質の高い治療を行っているが、更なる件数の増加を見込めることから、部屋の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 なお、令和3年度に、循環器疾患専門の集中治療室(CCU)と小児専門の集中治療室(PICU)を統合し、CCU病棟はHCUの役割を持たせた後方病棟とした。これにより、集中治療系の効率的な病棟運用が可能となり、CCU病棟のみならずPICUの病床稼働率の上昇につながった。																																																																				
									区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	5 年度目標																																																																																																																																																																			
実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上																																																																																																																																																																												
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
件数	8	5	8	6	4	8																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938																																																																																																																																																																													
病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
人数	5	9	7	9	8	12																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
件数	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
症例数	5	3	0	2	5	7																																																																																																																																																																													
						52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	こども	産科入院患者数(単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>5,850</td><td>5,810</td><td>4,461</td><td>4,823</td><td>3,642</td><td>4,003</td></tr></table> 周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績(単位：回、人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>研修会等回数</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>373</td><td>377</td><td>255</td><td>155</td><td>45</td><td>55</td></tr></table> NICU診療実績(単位：人、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,519</td><td>5,250</td><td>5,029</td><td>5,094</td><td>5,121</td><td>5,293</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>84.0</td><td>79.7</td><td>76.5</td><td>77.5</td><td>77.9</td><td>80.3</td></tr></table> GCU診療実績(単位：人、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>4,646</td><td>4,723</td><td>4,685</td><td>4,978</td><td>5,001</td><td>5,161</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>70.7</td><td>71.7</td><td>71.3</td><td>75.8</td><td>76.1</td><td>78.3</td></tr></table> MFICU診療実績(単位：人、％) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>1,879</td><td>1,907</td><td>1,517</td><td>1,433</td><td>1,240</td><td>1,273</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>85.8</td><td>86.8</td><td>69.3</td><td>65.4</td><td>56.6</td><td>58.0</td></tr></table> 新生児出生体重別入院患者実績(単位：人) <table><tr><th>体重(g)</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>500未満</td><td>4</td><td>8</td><td>4</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>500～1,000</td><td>29</td><td>41</td><td>19</td><td>22</td><td>23</td><td>13</td></tr><tr><td>1,000～1,500</td><td>26</td><td>25</td><td>28</td><td>15</td><td>24</td><td>18</td></tr><tr><td>1,500以上</td><td>165</td><td>139</td><td>168</td><td>248</td><td>180</td><td>212</td></tr><tr><td>合計</td><td>224</td><td>213</td><td>219</td><td>291</td><td>229</td><td>244</td></tr></table> 血液腫瘍科延患者数実績(単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>入院</td><td>8,656</td><td>7,849</td><td>7,335</td><td>4,810</td><td>6,268</td><td>6,326</td></tr><tr><td>外来</td><td>3,601</td><td>3,713</td><td>3,298</td><td>3,665</td><td>3,516</td><td>3,152</td></tr></table>								区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	研修会等回数	8	9	8	2	1	2	参加者数	373	377	255	155	45	55	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293	病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161	病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273	病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0	体重(g)	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	500未満	4	8	4	6	2	1	500～1,000	29	41	19	22	23	13	1,000～1,500	26	25	28	15	24	18	1,500以上	165	139	168	248	180	212	合計	224	213	219	291	229	244	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326	外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152	A	第3期中期目標期間中、最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行った。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れており、静岡県中部の周産期医療の拠点として、重症新生児(超早産児、重症新生児仮死、外科手術を要する先天性疾患等)は、ほぼ全てこども病院で治療した。 また例年、地域医療機関を対象とした母体救急や新生児に関する研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図った。 NICUの入院延患者数及び病床稼働率はコロナの影響を受けたが、令和5年度に令和元年度の水準まで回復した。平成30年度と比較すると稼働が減少しているが、これまで特定入院料の算定期間を超えてNICUで治療していた長期入院患者を転棟させることで、病床稼働の効率化を図ったためである。
									区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																				
入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
研修会等回数	8	9	8	2	1	2																																																																																																																																																																													
参加者数	373	377	255	155	45	55																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293																																																																																																																																																																													
病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161																																																																																																																																																																													
病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273																																																																																																																																																																													
病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0																																																																																																																																																																													
体重(g)	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
500未満	4	8	4	6	2	1																																																																																																																																																																													
500～1,000	29	41	19	22	23	13																																																																																																																																																																													
1,000～1,500	26	25	28	15	24	18																																																																																																																																																																													
1,500以上	165	139	168	248	180	212																																																																																																																																																																													
合計	224	213	219	291	229	244																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																																																																																																																																																													
入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326																																																																																																																																																																													
外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152																																																																																																																																																																													

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																											
													本	説明																																										
		・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催	53	小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ③小児がん連携病院を指定し、地域医療機関との連携を図り、拠点病院としての役割を果たす。 ④AYA世代がんに関わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。	造血幹細胞移植実績(単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>骨髓移植</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髓移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	S	小児がんは成人と比較して発症数の少なさから発見、診療が専門機関でない困難であるが、こども病院は全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に平成31年4月に初めて指定され、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専従化等により体制整備に努めてきた。 小児がん拠点病院としての役割を適切に果たすため、令和3年度には病棟の改築(個室等のクリーン度アップ、AYAラウンジの増設、Wi-Fi環境の整備等)を実施し、更なる体制整備を進めた。 また、長期入院治療中の生徒の学習継続が社会的な課題となっている中、令和4年度には、前年度に整備したWi-Fi環境を活用し、県教育委員会と連携し、入院中の高校生の小児がん患者へのオンライン学習支援を本格的に開始した。この結果、オンラインでの授業参加により、正式に履修修得可能となり、留年や通信制の高校に編入することなく、学習を継続できるようになった。この取組は、令和4年度「県ひとり改革運動」において、県民サービスの向上大賞を受賞し、さらには優秀賞(総合第2位)を受賞した。 第3期中期目標期間において、院内小児がん登録、造血幹細胞移植、各種研修会等の実施実績を積み重ね、小児がん拠点病院としての役割を着実に果たした。 さらに、がんゲノム医療連携病院(令和元年12月指定)としてがんゲノム医療についても取組を実施し、加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催等他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めた。 こうした取組が評価され、小児がん拠点病院の厚生労働省指定を令和4年度に再度受け、令和5年4月から、2期目の取組を開始している。 指定の継続により治験・臨床研究への参加が加速し、小児がん領域の医師主導治験等に4件参加している。治験参加のメリットは非常に大きく、また、治験を受けることは小児がん拠点病院としての使命であることから、他の指定施設と同等以上の体制となるよう更なる整備を進め、次期の指定継続を確実なものにしていく。
						区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																												
骨髓移植	5	2	8	3	3	3																																																		
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																		
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																		
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																		
計	14	10	12	6	10	9																																																		
小児がん登録件数(単位: 人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>5年度目標</th></tr><tr><td>登録件数</td><td>47</td><td>56</td><td>55</td><td>53</td><td>42</td><td>45</td><td>45</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	登録件数	47	56	55	53	42	45	45																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																	
登録件数	47	56	55	53	42	45	45																																																	
						がんセンターとの共同カンファレンス回数(単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	3	3	7	3	9	12																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																		
回数	3	3	7	3	9	12																																																		
						AYA世代がん研修会実施回数(単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	1	4	2	2	2	3																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																		
回数	1	4	2	2	2	3																																																		
						がん公開講座件数(単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	-	1	0	1	1	1																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																		
件数	-	1	0	1	1	1																																																		
						【参考】北 5 病棟改修にかかる打ち合わせ回数(単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td><td>25</td></tr></table> 令和3年度7月に完成済							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	17	25																																		
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
回数	-	-	17	25																																																				
						研修会(脳腫瘍関係)(単位: 回) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>64</td><td>61</td><td>66</td></tr></table>							区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	1	1	1	参加人数	-	-	-	64	61	66																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																		
開催回数	-	-	-	1	1	1																																																		
参加人数	-	-	-	64	61	66																																																		
						</																																																		

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価							
									本	説明							
					55	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急(消防)業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	こども	各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に集中治療科、小児救急科等の医師が参加した。救急隊員等を対象とした研修会等は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施できなかった。	B	第3期中期目標期間を通して、メディカルコントロール推進に係る専門的事項について検討する県メディカルコントロール推進作業部会に集中治療科医師が継続的に参加した。また、静岡市消防局が主催する静岡地域メディカルコントロール協議会についても小児救急科等の医師が継続的に参加し、体制整備に協力した。 救急隊員等を対象にした研修会等は、令和元年度には実施したものの、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響等により実施していない。 重篤な小児患者の受入れ等救急体制を継続的に整備しており、小児救命救急センターとしての責務を果たした。							
								救急関係研修会等開催実績(単位：人)									
								区分			対象	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
								小児救命救急研究会			小児医療、救急医療関係者	161	86	0	0	0	0
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	0	0	0	0	0										
			56	①子どものこころの診療分野について、総合病院、こころの医療センターとの連携を図り、県内の児童精神医療に貢献 ①「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ②臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	こども	①児童精神科医療について、県立病院機構精神科あり方検討を踏まえ、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の見直し・充実を図る。	こころの診療科診療実績(単位：人)	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
						入院延患者数		10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698				
						入院新患者数		57	50	63	71	63	69				
						外来延患者数		12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	12,150				
外来初診患者数	466	514	579	617	542	543											
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	こども	事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市	こころの診療科地域別実患者数実績(単位：人)	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
						東部		779	759	744	829	796	784				
						中部		1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477				
						西部		56	59	56	53	44	54				
県外	10	14	13	13	9	9											
合計	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324											
			58	③児童精神科医の育成に努める。	こども	有期職員医師を1名採用し(平成25年度から延べ10名)、専門的な児童精神科医を育成した。	有期職員医師採用実績(単位：人)	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
						採用人数		1	1	1	1	1	1				
						採用人数		1	1	1	1	1	1				
						採用人数		1	1	1	1	1	1				

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価	
								本	説明
2	医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2	医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	—	— ・業務運営に必要な人材の確保に努める。	— 職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)	B	—	第3期中期目標期間中、継続して医師確保に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一時的に中断したものの養成校訪問も実施するなど様々な確保対策を進め、採用数の増加を図っているものの、確保対策の中断期間が長期間に渡ったことから、特に総合病院の看護師確保が予定通り見込めなかった。
				61	本部・各病院（総務）	正規職員 総合 こころ こども 計 有期職員 総合 こころ こども 計	A	研修医に対する説明会について、第3期中期目標期間中、総合病院では新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一時的に、Webでの開催となったが、基本的には対面式の合同説明会を開催し医学生に向けて、PR活動を行った。また、専攻医確保活動として、研修医を対象にオンライン会議システムを活用した面談を実施し、PRを行った。 見学・実習について、卒業年次の学生に限るなどの制限をすることもあったが、抗原検査の実施や陰性証明を持参してもらい、できるだけ受け入れるように努めた。	
				62	各病院（総務）	初期臨床研修医数（総合病院） (単位：人) 1年生 2年生 計 ※（ ）うち自治医大学出身者 後期臨床研修医数 (単位：人) 総合 こころ こども 計	A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施した。 また、経験者を対象とした月次募集により切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士(アソシエイト)、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、心理療法士、遺伝カウンセラーについて公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。	
				63	本部（総務）	看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコメディカルのアソシエイトの公募試験を実施した。 正規職員の確保状況（各年度4月1日現在） (単位：人) 法人合計 本部 総合 こころ こども	A		

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																																																																																																																																			
										本	説明																																																																																																																																																																																																		
						64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	看護学生向け就職説明会 (R5末時点) (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th><th>受験者数</th></tr><tr><td>ナース専科(静岡)</td><td>49</td><td>74</td><td>11</td></tr><tr><td>ナースナビ(浜松)</td><td>174</td><td>65</td><td>0</td></tr><tr><td>マイナビ(静岡)</td><td>219</td><td>160</td><td>30</td></tr><tr><td>(沼津)</td><td>103</td><td>82</td><td>8</td></tr><tr><td colspan="4">業者計</td><td>49</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>71</td><td>127</td><td>23</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>—</td><td>54</td><td>27</td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>160</td><td>—</td><td>4</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>—</td><td>—</td><td>11</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>81</td><td>56</td><td>6</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>104</td><td>57</td><td>10</td></tr><tr><td colspan="4">養成校計</td><td>81</td></tr><tr><td colspan="4">計</td><td>130</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり 看護学生向け就職説明会 (単位：人) <table><tr><th></th><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">来場者数</td><td>業者</td><td>226</td><td>709</td><td>709</td><td>582</td><td>0</td><td>545</td></tr><tr><td>養成校</td><td>602</td><td>35</td><td>35</td><td>137</td><td>416</td><td>416</td></tr><tr><td rowspan="2">訪問者数</td><td>業者</td><td>64</td><td>645</td><td>645</td><td>438</td><td>545</td><td>381</td></tr><tr><td>養成校</td><td>345</td><td>316</td><td>316</td><td>120</td><td>294</td><td>294</td></tr><tr><td rowspan="2">受験者数</td><td>業者</td><td>3</td><td>112</td><td>112</td><td>82</td><td>381</td><td>49</td></tr><tr><td>養成校</td><td>73</td><td>92</td><td>92</td><td>72</td><td>67</td><td>81</td></tr></table>		区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	49	74	11	ナースナビ(浜松)	174	65	0	マイナビ(静岡)	219	160	30	(沼津)	103	82	8	業者計				49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	—	54	27	聖隷クリストファー大学	160	—	4	順天堂大学	—	—	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10	養成校計				81	計				130			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	業者	226	709	709	582	0	545	養成校	602	35	35	137	416	416	訪問者数	業者	64	645	645	438	545	381	養成校	345	316	316	120	294	294	受験者数	業者	3	112	112	82	381	49	養成校	73	92	92	72	67	81	実施無し	A	第3期中期目標期間中において、新型コロナウイルス感染症の影響で今までのような病院見学会やインターンシップの開催ができない中、少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会への参加をしている。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。 説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。																																																																																	
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																										
ナース専科(静岡)	49	74	11																																																																																																																																																																																																										
ナースナビ(浜松)	174	65	0																																																																																																																																																																																																										
マイナビ(静岡)	219	160	30																																																																																																																																																																																																										
(沼津)	103	82	8																																																																																																																																																																																																										
業者計				49																																																																																																																																																																																																									
静岡県立大学	71	127	23																																																																																																																																																																																																										
常葉大学	—	54	27																																																																																																																																																																																																										
聖隷クリストファー大学	160	—	4																																																																																																																																																																																																										
順天堂大学	—	—	11																																																																																																																																																																																																										
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																																																																																																																																										
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																																																																																																																																										
養成校計				81																																																																																																																																																																																																									
計				130																																																																																																																																																																																																									
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																						
来場者数	業者	226	709	709	582	0	545																																																																																																																																																																																																						
	養成校	602	35	35	137	416	416																																																																																																																																																																																																						
訪問者数	業者	64	645	645	438	545	381																																																																																																																																																																																																						
	養成校	345	316	316	120	294	294																																																																																																																																																																																																						
受験者数	業者	3	112	112	82	381	49																																																																																																																																																																																																						
	養成校	73	92	92	72	67	81																																																																																																																																																																																																						
(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	—	—	—	65	○医師 ①③医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①③医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。 ②地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合の円滑な運営に寄与する。	(総合) 海外研修の実績 (5年度時点) (単位：人) <table><tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="16">元年度</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td><td>3年度</td><td>実績なし</td><td></td><td rowspan="20">5年度</td><td>2023Asian Pacific society of Dialysis Access (APSD)</td><td>1</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td><td rowspan="15">4年度</td><td>オーストラリア交換研修</td><td>1</td><td>American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023</td><td>1</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td><td>24th European Congress of Pathology</td><td>1</td><td>The 57th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology</td><td>1</td></tr><tr><td>June Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td><td>欧州呼吸器学会国際会議2022</td><td>2</td><td>Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference</td><td>1</td></tr><tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td><td>ICS 2022 VIENNA</td><td>3</td><td>Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK</td><td>2</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td><td>World Allergy Congress2022</td><td>2</td><td>San Antonio Breast Cancer Symposium</td><td>1</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td><td>Dialysis Access Synergy 2022</td><td>1</td><td>8th World Congress of Anesthesiologists</td><td>1</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td><td>American Society of Human Genetics2022</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>9th Congress of the European Society of Surgical Oncology</td><td>2</td><td>APLAR2022</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第28回「アジア」皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td><td>TRANCON2022</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ヨーロッパ 救急医学会</td><td>1</td><td>2023米国アレルギー喘息免疫アソシエーション年次総会</td><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第31年次会議2019</td><td>3</td><td>4th congress of the European society of surgical oncology</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY</td><td>2</td><td>Quantitative Genetics and Genomics Genetic Research Conference</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>American Pancreatic Assosiation</td><td>3</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>12</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td><td>American Thoracic Society 2023 International Conference</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td><td>アジア心臓血管外科学会総会 (ASCVTS 2023)</td><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">2年度</td><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td><td rowspan="4">5年度</td><td>International Society on Thrombosis and Hemostasis</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ASCOTS2020</td><td>2</td><td>The European Respiratory Society International Congress 2023</td><td>3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td><td>The 19th ISSE World Congress for Endopulmonary Hygiene</td><td>2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>18</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>11</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">2年度</td><td colspan="2">実績なし</td><td colspan="2">APMDC 2023 (アジア太平洋医学教育学会)</td><td>1</td><td colspan="2">計</td><td>114</td></tr></table> 海外での学会発表実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>13</td></tr><tr><td>こども</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td><td>19</td><td>27</td><td>22</td></tr></table> 海外研修の主な実績 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th colspan="2">内 容</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="2">総 合</td><td colspan="2">UCLA研修</td><td>12</td><td>11</td></tr><tr><td colspan="2">その他 海外学会</td><td>17</td><td>19</td></tr><tr><td>こころ</td><td colspan="2">—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td colspan="2">The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023)</td><td>0</td><td>8</td></tr><tr><td colspan="2">その他海外学会</td><td>8</td><td>22</td></tr></table>		内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数	元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	2023Asian Pacific society of Dialysis Access (APSD)	1	AATS 99th Annual Meeting	2	4年度	オーストラリア交換研修	1	American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023	1	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	24th European Congress of Pathology	1	The 57th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology	1	June Conference in Wroclaw 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	ICS 2022 VIENNA	3	Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2	SSAI 2019	3	World Allergy Congress2022	2	San Antonio Breast Cancer Symposium	1	第31回欧州病理学会	1	Dialysis Access Synergy 2022	1	8th World Congress of Anesthesiologists	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	American Society of Human Genetics2022	1			9th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2	APLAR2022	1			第28回「アジア」皮膚科学・性病学会学術大会	1	TRANCON2022	1			ヨーロッパ 救急医学会	1	2023米国アレルギー喘息免疫アソシエーション年次総会	2			第31年次会議2019	3	4th congress of the European society of surgical oncology	1			37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2	Quantitative Genetics and Genomics Genetic Research Conference	1			American Pancreatic Assosiation	3	臨床研修医UCLA研修	12			ANS Kidney Week 2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference	1			アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	アジア心臓血管外科学会総会 (ASCVTS 2023)	3			2年度	EuroEcho 2019	2	5年度	International Society on Thrombosis and Hemostasis	1			ASCOTS2020	2	The European Respiratory Society International Congress 2023	3			第109回 USCAP2020	1	The 19th ISSE World Congress for Endopulmonary Hygiene	2			臨床研修医UCLA研修	18	臨床研修医UCLA研修	11			2年度		実績なし		APMDC 2023 (アジア太平洋医学教育学会)		1	計		114	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	33	65	0	0	11	13	こども	31	31	3	19	27	22	区 分	内 容		4年度	5年度	総 合	UCLA研修		12	11	その他 海外学会		17	19	こころ	—		—	—	こども	The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023)		0	8	その他海外学会		8	22	A	(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 第3期中期目標期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた令和2年度及び3年度は実質的な交流が難しい状況となったが、令和4年度、5年度は訪問団・研修生の受入れ、学会への参加が増加している。 令和5年6月には、4年ぶりに浙江省からの訪問団(浙江省衛生健康委員会)を受入れた。11月には浙江省中医院と友好協力覚書を締結し、同月に浙江中医药大学附属第2医院、3月には浙江省衛生健康委員会、浙江省腫瘍医院の訪問団を受け入れた。10月～2月にかけては、4年ぶりとなる浙江省からの研修生を受け入れた。 (こども) 第3期中期目標期間における海外での学会発表件数について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少したが、令和3年度以降は徐々に増加した。 令和元年度は浙江省児童病院との医師相互研修等を実施したが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により中止している。令和5年度には浙江省衛生健康委員会による当院視察が実施され、高度かつ先進的な質の高い小児医療を紹介した。
内 容		人数	内 容		人数	内 容		人数																																																																																																																																																																																																					
元年度	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし		5年度	2023Asian Pacific society of Dialysis Access (APSD)	1																																																																																																																																																																																																					
	AATS 99th Annual Meeting	2	4年度	オーストラリア交換研修	1		American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023	1																																																																																																																																																																																																					
	米国胸部疾患学会2019国際会議	3		24th European Congress of Pathology	1		The 57th Congress of the Asian Pacific Society of Nephrology	1																																																																																																																																																																																																					
	June Conference in Wroclaw 2019	1		欧州呼吸器学会国際会議2022	2		Asian Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																																					
	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1		ICS 2022 VIENNA	3		Asian Pacific Digestive Week 2023 BANGKOK	2																																																																																																																																																																																																					
	SSAI 2019	3		World Allergy Congress2022	2		San Antonio Breast Cancer Symposium	1																																																																																																																																																																																																					
	第31回欧州病理学会	1		Dialysis Access Synergy 2022	1		8th World Congress of Anesthesiologists	1																																																																																																																																																																																																					
	欧州呼吸器学会国際会議2019	3		American Society of Human Genetics2022	1																																																																																																																																																																																																								
	9th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2		APLAR2022	1																																																																																																																																																																																																								
	第28回「アジア」皮膚科学・性病学会学術大会	1		TRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																								
	ヨーロッパ 救急医学会	1		2023米国アレルギー喘息免疫アソシエーション年次総会	2																																																																																																																																																																																																								
	第31年次会議2019	3		4th congress of the European society of surgical oncology	1																																																																																																																																																																																																								
	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2		Quantitative Genetics and Genomics Genetic Research Conference	1																																																																																																																																																																																																								
	American Pancreatic Assosiation	3		臨床研修医UCLA研修	12																																																																																																																																																																																																								
	ANS Kidney Week 2019	2		American Thoracic Society 2023 International Conference	1																																																																																																																																																																																																								
	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2		アジア心臓血管外科学会総会 (ASCVTS 2023)	3																																																																																																																																																																																																								
2年度	EuroEcho 2019	2	5年度	International Society on Thrombosis and Hemostasis	1																																																																																																																																																																																																								
	ASCOTS2020	2		The European Respiratory Society International Congress 2023	3																																																																																																																																																																																																								
	第109回 USCAP2020	1		The 19th ISSE World Congress for Endopulmonary Hygiene	2																																																																																																																																																																																																								
	臨床研修医UCLA研修	18		臨床研修医UCLA研修	11																																																																																																																																																																																																								
2年度		実績なし		APMDC 2023 (アジア太平洋医学教育学会)		1	計		114																																																																																																																																																																																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																							
総合	33	65	0	0	11	13																																																																																																																																																																																																							
こども	31	31	3	19	27	22																																																																																																																																																																																																							
区 分	内 容		4年度	5年度																																																																																																																																																																																																									
総 合	UCLA研修		12	11																																																																																																																																																																																																									
	その他 海外学会		17	19																																																																																																																																																																																																									
こころ	—		—	—																																																																																																																																																																																																									
こども	The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023)		0	8																																																																																																																																																																																																									
	その他海外学会		8	22																																																																																																																																																																																																									

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）		第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																																																																																																																					
										本	説明																																																																																																																																				
						66	④メディカルスキルアップセンターの活用の促進を図る。 総合	メディカルスキルアップセンター利用状況（単位：回、人） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th><th colspan="2">うち外部利用</th></tr><tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>617</td><td>31</td><td>775</td><td>42</td><td>1097</td><td>5</td><td>1,773</td><td>5</td><td>925</td><td>0</td><td>1379</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,772</td><td>145</td><td>3,236</td><td>166</td><td>3,488</td><td>16</td><td>3,194</td><td>41</td><td>1,707</td><td>17</td><td>2,068</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>230</td><td>32</td><td>288</td><td>39</td><td>275</td><td>7</td><td>175</td><td>4</td><td>95</td><td>0</td><td>84</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>4,474</td><td>237</td><td>5,867</td><td>291</td><td>4,468</td><td>67</td><td>2,987</td><td>67</td><td>2,016</td><td>0</td><td>1,847</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>188</td><td>137</td><td>310</td><td>186</td><td>238</td><td>118</td><td>122</td><td>91</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,560</td><td>1,397</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,863</td><td>736</td><td>503</td><td>215</td><td>392</td><td>146</td><td>287</td><td>258</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>開催回数</td><td>1,035</td><td>200</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>130</td><td>2,070</td><td>100</td><td>1,030</td><td>0</td><td>1,473</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>9,806</td><td>1,779</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,819</td><td>819</td><td>6,684</td><td>323</td><td>4,115</td><td>163</td><td>4,202</td><td>259</td></tr></table>		区 分		30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		医師	開催回数	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	参加人数	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	看護師	開催回数	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0	参加人数	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	その他	開催回数	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	参加人数	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258	計	開催回数	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0	参加人数	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	A	メディカルスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。 第3期中期目標期間における利用状況は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、減少した時期もあったが、着実に利用されていた。 今後も院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。
区 分		30年度		元年度		2年度		3年度				4年度		5年度																																																																																																																																	
		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用																																																																																																																																					
医師	開催回数	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0																																																																																																																																		
	参加人数	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1																																																																																																																																		
看護師	開催回数	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0																																																																																																																																		
	参加人数	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0																																																																																																																																		
その他	開催回数	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0																																																																																																																																		
	参加人数	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258																																																																																																																																		
計	開催回数	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0																																																																																																																																		
	参加人数	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259																																																																																																																																		
						67	⑤大会議室を改修し、ラーニングセンターの機能を付加する。 こども	ラーニングセンター利用状況（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>利用件数</td><td>33</td><td>13</td><td>0</td><td>18</td><td>28</td><td>27</td></tr></table> ※各年度とも正確な研修実施回数の集計はできていない。 ※3年度以降はラーニングセンターが使用中中止のため、代替施設（病室等）での研修回数を記載。		区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用件数	33	13	0	18	28	27	B	従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。 ラーニングセンター再開に向け、令和3年度からワーキンググループで検討を行い、令和4年度にL棟3階の大会議室にラーニングセンター機能を付加することを中心に検討していくことに決めた。 令和5年度には、大会議室周辺の会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境とするとともに、大会議室等の改修を行うことで、研修内容や受講人数に応じて研修会場としても使用できるようにすることを決定し、当該工事を実施した。 この整備及び改修により、研修機能を集約したラーニングセンターを活用し、医療従事者の研修環境の充実に取り組んでいく。																																																																																																																						
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																									
利用件数	33	13	0	18	28	27																																																																																																																																									
		【目標値】 ・医師数（総合、こころ、こども） ・看護師数（総合、こころ、こども）				68	⑥海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑥静岡社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。 各病院（企画）	海外視察・講演等の派遣・受入（単位：人） <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>視察・講演等派遣</td><td>60</td><td>73</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>72</td></tr><tr><td>視察・研修等受入</td><td>51</td><td>35</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>29</td></tr></table> 総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。 令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。			30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72	視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29	A	第3期中期目標期間における派遣研修及び相互訪問について、新型コロナウイルス感染症の影響により中断した時期もあるが、その後は、着実に派遣・受入を再開している。また、中断期間においてもオンラインによる学会参加や書簡の往来など、可能な交流を継続的に行った。令和4年11月には機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結するなど交流を深めている。 令和5年6月には、4年ぶりに浙江省からの訪問団（浙江省衛生健康委員会）を受入れた。11月には浙江省中医院と友好協力覚書を締結し、同月に浙江中医薬大学附属第2医院、3月には浙江省衛生健康委員会、浙江省腫瘍医院の訪問団を受け入れた。10月～2月にかけては、4年ぶりとなる浙江省からの研修生を受け入れた。																																																																																																															
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																									
視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72																																																																																																																																									
視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29																																																																																																																																									

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5)実績 自己評価																																						
								本	説明																																					
				69	⑦看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	総合	<table><tr><th colspan="3">主な医療職種の資格取得者数 (R5末までの累計)</th></tr><tr><th>職種</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>3</td><td>がん看護、急性・重症患者看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>16</td><td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>43</td><td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td></tr><tr><td>検査技師</td><td>36</td><td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>39</td><td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影介入セッション専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td></tr><tr><td>その他</td><td>22</td><td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）</td></tr><tr><td>計</td><td>159</td><td></td></tr></table>	主な医療職種の資格取得者数 (R5末までの累計)			職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート	放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影介入セッション専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）	計	159		A	第3期中期目標期間においても認定看護師等の病院運営に寄与する資格取得者の増員を図るため、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充することで資格取得者の増員を図った。また、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的は活動に努めている。										
					主な医療職種の資格取得者数 (R5末までの累計)																																									
					職種	人数	専門・認定領域																																							
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																												
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法																																												
薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																												
検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート																																												
放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影介入セッション専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																												
その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士（運動器、呼吸器、内部障害、循環器）																																												
計	159																																													
精神科	<table><tr><th colspan="3">認定看護師取得者数 (5年度末時点) (単位：人)</th></tr><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>0</td><td>精神看護 (リエゾン領域)</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>6</td><td>精神科</td></tr><tr><td>0</td><td>感染管理</td></tr></table>	認定看護師取得者数 (5年度末時点) (単位：人)			区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護 (リエゾン領域)	認定看護師	6	精神科	0	感染管理																															
認定看護師取得者数 (5年度末時点) (単位：人)																																														
区分	人数	専門・認定領域																																												
専門看護師	0	精神看護 (リエゾン領域)																																												
認定看護師	6	精神科																																												
	0	感染管理																																												
こども	<table><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>2</td><td>小児看護</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td rowspan="2">10</td><td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護</td></tr></table>	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	2	小児看護	認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護																																				
区分	人数	専門・認定領域																																												
専門看護師	2	小児看護																																												
認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護																																												
		各病院	70	⑧臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	実習・アルバイト研修等の受入れ (単位：人)	A	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 第3期中期目標期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、できる限り実習や見学の受け入れを実施してきた。																																							
	<table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="6">5 年度</th></tr><tr><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr><tr><td>総 合</td><td>86</td><td>377</td><td>0</td><td>591</td><td>75</td><td>1, 129</td></tr><tr><td>こころ</td><td>43</td><td>2</td><td>1</td><td>416</td><td>8</td><td>470</td></tr><tr><td>こども</td><td>94</td><td>38</td><td>9</td><td>306</td><td>60</td><td>507</td></tr><tr><td>計</td><td>223</td><td>417</td><td>10</td><td>1, 313</td><td>143</td><td>2, 106</td></tr></table>			区 分	5 年度						医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総 合	86	377	0	591	75	1, 129	こころ	43	2	1	416	8	470	こども	94	38	9	306	60	507	計	223	417	10	1, 313	143	2, 106		
区 分	5 年度																																													
	医師			医学生	看護師			看護学生	コメディカル	計																																				
総 合	86			377	0			591	75	1, 129																																				
こころ	43			2	1			416	8	470																																				
こども	94	38	9	306	60	507																																								
計	223	417	10	1, 313	143	2, 106																																								

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)							第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																																																																														
															本	説明																																																																																																																													
						71	⑨研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	本部・各病院（総務）	職員研修参加者数 (単位：人) <table><tr><th></th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>125</td><td>139</td><td>160</td><td>130</td><td>147</td><td>149</td></tr><tr><td>新規役付職員研修</td><td>6</td><td>7</td><td>10</td><td>271</td><td>80</td><td>54</td></tr><tr><td>新規監督者研修</td><td>18</td><td>11</td><td>16</td><td>10</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>－</td><td>－</td><td>120</td><td>96</td><td>96</td><td>55</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>35</td><td>21</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>133</td></tr><tr><td>コミュニケーション講座</td><td>30</td><td>19</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td><td>19</td></tr><tr><td>接遇・クレーム対応講座</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>17</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>20</td><td>25</td><td>29</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>22</td><td>20</td><td>29</td><td>19</td><td>32</td><td>20</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>14</td><td>29</td><td>24</td><td>21</td><td>18</td><td>14</td></tr></table> ※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。								30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149	新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54	新規監督者研修	18	11	16	10	16	16	労務管理者研修	－	－	120	96	96	55	新任管理者・新任監督者研修	35	21	－	－	－	133	コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19	接遇・クレーム対応講座	－	－	－	－	－	17	ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19	コーチング講座	22	20	29	19	32	20	メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14	A	第3期中期目標期間においても、引続き、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。特に、令和2年度以降は、働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修も新たに実施している。																																															
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																							
新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149																																																																																																																																							
新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54																																																																																																																																							
新規監督者研修	18	11	16	10	16	16																																																																																																																																							
労務管理者研修	－	－	120	96	96	55																																																																																																																																							
新任管理者・新任監督者研修	35	21	－	－	－	133																																																																																																																																							
コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19																																																																																																																																							
接遇・クレーム対応講座	－	－	－	－	－	17																																																																																																																																							
ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19																																																																																																																																							
コーチング講座	22	20	29	19	32	20																																																																																																																																							
メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14																																																																																																																																							
(2) 勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。		(2) 勤務環境の向上 医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。		(2) 勤務環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用		－	－	－	－							－	－																																																																																																																												
						72	①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	本部（総務）	看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 アソシエイト採用実績 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>看護師</td><td>3</td><td>－</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>10</td><td>3</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>3</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>16</td><td>4</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	看護師	3	－	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	A	第3期中期目標期間においても、引続き次のような柔軟な職員採用などを実施している。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 看護師等のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めている。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。																																																																																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																								
看護師	3	－	1	1	1																																																																																																																																								
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																																								
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																																								
計	16	4	14	3	4																																																																																																																																								
						73	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	本部・各病院（総務）	補助職員の配置状況（各年度4月1日現在） (単位：人) <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医師事務補助</td><td>73</td><td>71</td><td>70</td><td>76</td><td>72</td><td>70</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>73</td><td>66</td><td>61</td><td>58</td><td>56</td><td>59</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>19</td><td>22</td><td>20</td><td>23</td><td>26</td><td>27</td></tr><tr><td>小計</td><td>165</td><td>159</td><td>151</td><td>157</td><td>154</td><td>156</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>医師事務補助</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>13</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>医師事務補助</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>19</td><td>20</td><td>18</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>21</td><td>25</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>20</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>8</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>小計</td><td>45</td><td>49</td><td>48</td><td>48</td><td>47</td><td>43</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医師事務補助</td><td>94</td><td>92</td><td>92</td><td>96</td><td>94</td><td>89</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>102</td><td>99</td><td>92</td><td>88</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>26</td><td>29</td><td>28</td><td>33</td><td>34</td><td>34</td></tr><tr><td>小計</td><td>222</td><td>220</td><td>212</td><td>217</td><td>214</td><td>209</td></tr></table>							区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70	看護助手	73	66	61	58	56	59	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27	小計	165	159	151	157	154	156	こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1	看護助手	8	8	9	9	9	7	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	12	13	12	13	10	こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18	看護助手	21	25	22	21	21	20	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5	小計	45	49	48	48	47	43	計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89	看護助手	102	99	92	88	86	86	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34	小計	222	220	212	217	214	209	A	第3期中期目標期間中、医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和4年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度より派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければならない業務に専念できている。
区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																						
総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	70																																																																																																																																						
	看護助手	73	66	61	58	56	59																																																																																																																																						
	コメディカル助手	19	22	20	23	26	27																																																																																																																																						
	小計	165	159	151	157	154	156																																																																																																																																						
こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	1																																																																																																																																						
	看護助手	8	8	9	9	9	7																																																																																																																																						
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																						
	小計	12	12	13	12	13	10																																																																																																																																						
こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	18																																																																																																																																						
	看護助手	21	25	22	21	21	20																																																																																																																																						
	コメディカル助手	5	5	6	8	6	5																																																																																																																																						
	小計	45	49	48	48	47	43																																																																																																																																						
計	医師事務補助	94	92	92	96	94	89																																																																																																																																						
	看護助手	102	99	92	88	86	86																																																																																																																																						
	コメディカル助手	26	29	28	33	34	34																																																																																																																																						
	小計	222	220	212	217	214	209																																																																																																																																						
						74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	本部（総務）	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度から昇給に活用し（令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用）、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施している。							A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与（勤勉手当）に活用、令和3年度から昇給に活用し（令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用）、全職員（有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く）を対象に実施している。																																																																																																																												

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																					
						本	説明																																						
				75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生 の充実を進める。 【総合病院】 ・総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和5年度も実施した。 【こころの医療センター】 ・新電子カルテへの入力をスムーズに行うため、端末と移動カートを配備した。 【こども病院】 ・会議でのタブレット端末(ipad)の活用や、オンライン会議でのZoomRoomsの活用により、会議に係る業務の効率化を図った。 ・職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。	本部・各病院（総務・企画）	S	第3期中期目標期間中、総合病院では、令和3年9月にカフェ棟を設置、令和4年4月に敷地内保険調剤薬局及びレストランが開業した。また、医師の働き方改革をふまえ、医師の労働時間短縮計画等に基づき、勤務間インターバルの確保、代償休息の取得の推進、医師から看護・メディカルスタッフ・事務への業務のタスクシフトの推進等の取組を行った。 こころの医療センターでは、令和元年度以降エレベーターの改修やトイレ等の衛生設備の改善、研修医用の研修室の整備等を実施し、就労環境の改善に努めた。また令和5年度に稼働した3病院統合電子カルテにおいて高規格のテンプレートを作成し、医師のカルテ入力や統計作業の省力化を図った。 令和6年4月から施行されている改正医療法を踏まえ、医師の労働時間の管理と健康確保措置を適切に実施する。 こども病院では、令和元年度から新園舎での院内保育を開始した。また、同年度に新売店(セブンイレブン)を整備、開店した。2年度には、老朽化及び狭隘化した検査室、薬剤室等のリニューアル工事を実施し、各部署の機能を向上させた。3年度にタブレット端末(ipad)の導入及び会議室へのZoom Roomsの整備を実施し、各種会議等で活用している。5年度に職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。また、医師の働き方改革をふまえ、看護師による病棟における採血業務の実施や薬剤師による服薬指導等、他職種へのタスクシフトを行っている。また、医師を含む医療スタッフと患者家族との面談時間を原則、勤務時間内(9時～16時30分まで)としており、医師の労働時間の短縮に努めている。令和6年3月に静岡県から特定地域医療提供機関の指定を受けており、引き続き、医師の労働時間短縮計画に基づき、検討しながら取り組んでいく。 また、看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常の生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 更に、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広がっている。 なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。 引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。																																					
			76	⑤院内保育の活用を図る。 保育所利用者数 (単位：人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">定員</th><th colspan="6">平均利用者数</th></tr><tr><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>82</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>60</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>13</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>95</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>92</td></tr></table>	区 分			定員	平均利用者数						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60	こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32	計	180	95	91	82	84	102	92	総合・こども
区 分	定員	平均利用者数																																											
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60																																						
こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32																																						
計	180	95	91	82	84	102	92																																						

										第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価		
中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		本	説明
3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	—	—	—	—			—
	県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。		県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。		—	—	—	—	—			
(1) 研究機能の強化		(1) 研究機能の強化		(1) 研究機能の強化		—	—	—	—			—
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。		県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。		①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究		77	①②臨床研究や疫学研究の充実・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	総合	臨床研究数 (単位：件、%)		S	第3期中期目標期間において、病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでいる。令和2年度は、寺尾免疫研究部長らによる研究論文が英科学雑誌「Nature」に掲載されるなど実績を上げた。 さらに、県と協力しながら取り組んだ研究体制の強化や研究環境の整備に取り組んだ結果、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した。院内において推薦者を選定するなど、医療従事者が働きながら修学できる環境を整えており、令和5年度に博士前期課程に1名、博士後期課程に1名を選定している。 きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と音声知覚・言語発達のメカニズムを解明することを目的に締結した協定により共同研究を実施しているほか、言語聴覚士を増員し療育面でも聴覚障害児を支援している。令和4年度には、これまでの研究成果などを活かし、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の認可に貢献している。また、令和5年度より難聴児の音声言語獲得に高い実績を持つ、オーストラリアのシェパードセンターの療育プログラムによるパイロットセンター立ち上げの準備を静岡県と共に現地スタッフとのオンラインミーティングを重ねながら進めている。 令和2年1月に締結した慶應義塾大学大学院医学研究科と連携協力に関する協定に基づき、機構医師の大学院博士課程への入学等、人的交流を進めている。 文部科学省科学研究費については、総合病院の全ての診療科が申請対象となっており、毎年職員からの応募がある。
									客員研究員受入状況 (単位：人)			
								新生児聴覚スクリーニング件数 (単位：件)				
								人工内耳埋込術件数 (単位：件)				

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価	
										本	説明
				【目標値】 ・臨床研究数(総合)	78	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	各病院	医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)		A	第3期中期目標期間中については、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。
(2) 診療等の情報の活用		(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	①診療情報等の分析のできるシステムの活用	79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	総合	D P C コーディング部会開催実績 (単位：回、人)		A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。入院単価の上昇を目的に行っており、入院単価は着実に上昇している。
				①DPCの診療情報を分析し、診療ヘフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	80	①DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C 部会兼コード検討委員会を開催した。	こども	D P C 部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)		A	第3期中期目標期間を通して、DPC部会兼コード検討委員会を定期的に開催した。早期のデータ入力を促し、適切なコーディングを周知、実施することで診療報酬を漏れなく請求した。
4 医療に関する地域への支援		4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援					-			-
								-			-
(1) 地域の医療機関等との連携・支援		(1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援					-			-
				①県内の医師確保・偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施 ②県の医師派遣事業及び常勤医師の派遣への協力 ③地域医療連携推進法人制度を活用等による本県の医師確保、医師の人材育成、地域医療構想推進の支援及び病院の機能分化・連携強化 ④静岡市清水区の桜ヶ丘病院へ医師派遣等を行い清水区の病院医療の充実を支援 ⑤県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	81	①②⑤⑥県内の医師確保、偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施するほか、地域医療支援病院としての使命を果たすため医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ③④⑦⑧地域医療連携推進法人制度を活用して、静岡市清水区の桜ヶ丘病院への医師派遣等を行い、県の地域医療構想を推進することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	本部（総務・経営）各病院	医師定数（各年度4月1日現在） (単位：人)		S	第3期中期目標期間中も引き続き、県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師派遣を行った。 令和3年4月7日、静岡県知事より、県内初の地域医療連携推進法人となる「ふじのくに社会健康医療連合」の認定を受け、当院、桜ヶ丘病院、静岡社会健康医学大学院大学の3法人が参画している。静岡市清水区の医療を支える桜ヶ丘病院を存続させるため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行った。さらに、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、参画施設に、病院機構のこころの医療センターとこども病院を加えた。 (総合) 第3期中期目標期間を通して、県内の6から10の医療機関等に医師を派遣し、地域医療を支援している。 (こども) 第3期中期目標期間を通して、県内の7もしくは8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣しており、地域貢献を果たした。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。
								医師派遣実績 (単位：機関、科、人)			
								医師派遣実績（公的病院等） (単位：機関、科、人)			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）	第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																													
						本	説明																																												
			82	②小児1次救急医療への応援を行う。	静岡県急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>218</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td><td>194</td><td>240</td></tr></table> 【参考】医師派遣実績計 <table><tr><th>区 分</th><th>医療機関</th><th>診療科</th><th>延人員数</th></tr><tr><td>公的病院</td><td>8</td><td>3</td><td>381</td></tr><tr><td>急病センター</td><td>2</td><td>2</td><td>240</td></tr><tr><td></td><td>10</td><td>※4</td><td>621</td></tr></table> ※ 重複のため計が一致しない	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	218	214	197	165	194	240	区 分	医療機関	診療科	延人員数	公的病院	8	3	381	急病センター	2	2	240		10	※4	621	A	第3期中期目標期間を通して、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。各センターからの要請に基づく派遣のため、年度ごとの派遣人数には増減があるものの、小児1次救急医療の成立のため、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも派遣要請には可能な限り対応した。
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																													
医療機関	2	2	2	2	2	2																																													
診療科	2	2	2	2	2	2																																													
延人員数	218	214	197	165	194	240																																													
区 分	医療機関	診療科	延人員数																																																
公的病院	8	3	381																																																
急病センター	2	2	240																																																
	10	※4	621																																																
			83	④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 配置調整医師数及び県内勤務開始者数（単位：名） <table><tr><th>勤務開始年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>64</td><td>76</td><td>108</td><td>125</td><td>160</td><td>163</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>39</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td><td>107</td><td>108</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	配置調整医師数	64	76	108	125	160	163	うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108	A	第3期中期目標期間中に県の「ふじのくに地域医療支援センター」業務を静岡社会健康大学院大学と連携して実施する形態になった後も、引き続き県の医師確保施策に寄与している。																							
勤務開始年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																													
配置調整医師数	64	76	108	125	160	163																																													
うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108																																													
			84	⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	（総合） 令和5年度中に2領域増設し、令和6年度以降は全19領域中12領域においてプログラムを実施することとなった。令和6年度は、21名が当院の専門研修プログラムに所属予定となっている。新型コロナウイルス感染症以降、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。 （こども） 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。	A	（総合） 第3期中期目標期間中は、専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 （こころ） 病院見学を積極的に実施し、当院に勤務する専攻医の確保に努めている。また、採用スケジュールを前倒しを図り、確実な医師確保を推進していく。 （こども） 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行った。今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めていく。																																												
			85	⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。 C T、MR I 共同利用（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th></tr><tr><td>C T</td><td>896</td><td>881</td><td>659</td><td>722</td><td>733</td><td>617</td></tr><tr><td>MR I</td><td>586</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td><td>522</td><td>516</td></tr><tr><td>CT（撮影のみ）</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI（撮影のみ）</td><td>24</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>18</td><td>0</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	C T	896	881	659	722	733	617	MR I	586	595	472	517	522	516	CT（撮影のみ）	1	0	0	0	0	0	MRI（撮影のみ）	24	1	0	0	18	0	A	第3期中期目標期間において、桜ヶ丘病院と令和3年度に改めて協定を締結し、CT・MRI共同利用の推進に努めた。									
区 分	30年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度																																													
C T	896	881	659	722	733	617																																													
MR I	586	595	472	517	522	516																																													
CT（撮影のみ）	1	0	0	0	0	0																																													
MRI（撮影のみ）	24	1	0	0	18	0																																													
			86	⑧ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している（令和5年度にはデータセンター及び県立病院機構3病院の機器更新を実施）。 また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくにねっとに参加施設の利便性に貢献した。令和4年度以降は協議会の会長を中東遠総合医療センターから選出して運営を継続している。	A	第3期中期目標期間の令和4年度にふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の会長を中東遠総合医療センターから選出して運営を継続している。引き続き、ふじのくにねっとを活用し、積極開示をルール化するなど地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化している。																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)	第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																																																														
						本	説明																																																																																																													
			87	⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。 こども	小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（IJN）との接続試験を兼ねた症例検討会を実施した。また、他医療機関（4施設）と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施した。 心エコー画像遠隔診断実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施した。 順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立総合病院を連携病院として実施している心エコー画像遠隔診断については、第3期中期目標期間を通して実績を積み重ねた。																																																																																															
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
症例数	5	3	0	2	5	7																																																																																																														
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放 ⑤県児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進	— 88 89 90 91	— ①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。 ①他団体の講師派遣依頼に協力する。 ①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。 ①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	拡大がんセンターボード実績 <table><tr><th colspan="2">区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td colspan="2">回数（回）</td><td>6</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td rowspan="3">参加人数（人）</td><td>院内</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>78</td><td>101</td><td>106</td></tr><tr><td>院外</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td><td>49</td><td>25</td></tr><tr><td>合計</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>114</td><td>150</td><td>131</td></tr></table> 講師派遣実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>医師</td><td>43</td><td>56</td><td>58</td><td>43</td><td>51</td><td>63</td></tr><tr><td>その他</td><td>40</td><td>38</td><td>34</td><td>21</td><td>41</td><td>44</td></tr><tr><td>計</td><td>83</td><td>94</td><td>92</td><td>64</td><td>92</td><td>107</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況 (医師)（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>派遣回数</td><td>21</td><td>22</td><td>4</td><td>9</td><td>23</td><td>21</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況 (看護師)（単位：回） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>派遣回数</td><td>26</td><td>33</td><td>17</td><td>30</td><td>37</td><td>25</td></tr></table> 医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。 医療観察法による鑑定入院受入実績（単位：件） <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>こころ</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td></tr></table>	区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数（回）		6	5	3	2	4	4	参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101	106	院外	162	108	49	36	49	25	合計	356	286	122	114	150	131	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師	43	56	58	43	51	63	その他	40	38	34	21	41	44	計	83	94	92	64	92	107	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	21	22	4	9	23	21	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	26	33	17	30	37	25	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ	4	5	10	8	5	7	総合 総合 こころ	A A A A	— がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 第3期中期目標期間、コロナ禍における令和2年度から令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催回数を制限して開催している。 他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令第3期中期目標期間、積極的に実施している。 他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、第3期中期期間中において、医療観察法に係る鑑定入院を受入れた。
区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																													
回数（回）		6	5	3	2	4	4																																																																																																													
参加人数（人）	院内	194	178	73	78	101	106																																																																																																													
	院外	162	108	49	36	49	25																																																																																																													
	合計	356	286	122	114	150	131																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
医師	43	56	58	43	51	63																																																																																																														
その他	40	38	34	21	41	44																																																																																																														
計	83	94	92	64	92	107																																																																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
派遣回数	21	22	4	9	23	21																																																																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
派遣回数	26	33	17	30	37	25																																																																																																														
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
こころ	4	5	10	8	5	7																																																																																																														

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績（R5、第3期中期目標期間）												第3期中期目標期間（H31・R元～R5）実績 自己評価																																																													
								本	説明																																																																								
					92	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	こども	精神保健講座等開催実績												A	第3期中期目標期間中、こころの診療科では、教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的に行い、教育機関や福祉機関との連携強化を図った。 令和4年度に静岡県から受託した児童虐待早期発見医療体制整備事業は、こども家庭庁の重要な施策である児童虐待防止対策の強化に欠くことのできない事業であり、地域全体で児童虐待防止体制を整備するという本事業の目的の達成に向けて取り組んだ。院内の児童虐待対応体制を整備するとともに、地域医療機関からの相談対応や教育研修を行った。																																																												
								<table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度</th><th colspan="2">4年度</th><th colspan="2">5年度</th></tr><tr><th>精神保健</th><th>児童養護</th><th>精神保健</th><th>児童養護</th><th>精神保健</th><th>児童養護</th><th>精神保健</th><th>児童養護</th><th>精神保健</th><th>児童養護</th><th>精神保健</th><th>児童養護</th></tr><tr><th>対象</th><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td></tr><tr><th rowspan="2">参加者数等</th><td>5回</td><td>10回</td><td>5回</td><td>11回</td><td>2回</td><td>11回</td><td>4回</td><td>10回</td><td>3回</td><td>11回</td><td>5回</td><td>10回</td></tr><tr><td>159人</td><td>10施設</td><td>96人</td><td>11施設</td><td>49人</td><td>11施設</td><td>140人</td><td>10施設</td><td>75人</td><td>11施設</td><td>131人</td><td>10施設</td></tr></table>														区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	参加者数等	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																						
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護																																																																					
対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども																																																																					
参加者数等	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回	3回	11回	5回	10回																																																																					
	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	75人	11施設	131人	10施設																																																																					
								<table><tr><th colspan="6">医療機関に対する相談・助言件数</th><th colspan="6">(単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>件 数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>82</td><td>61</td><td>件 数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>82</td><td>61</td></tr></table>													医療機関に対する相談・助言件数						(単位：件)						区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件 数	-	-	-	82	61	件 数	-	-	-	82	61																									
医療機関に対する相談・助言件数						(単位：件)																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																						
件 数	-	-	-	82	61	件 数	-	-	-	82	61																																																																						
								<table><tr><th colspan="6">教育研修の実施回数</th><th colspan="6">(単位：件)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>実施回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>8</td><td>実施回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>8</td></tr></table>													教育研修の実施回数						(単位：件)						区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	実施回数	-	-	-	5	8	実施回数	-	-	-	5	8																									
教育研修の実施回数						(単位：件)																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																						
実施回数	-	-	-	5	8	実施回数	-	-	-	5	8																																																																						
			93	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	こども	公費負担患者状況												A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応した。																																																														
						<table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>小児慢性</td><td>1,837</td><td>1,771</td><td>1,691</td><td>1,674</td><td>1,571</td><td>1,565</td></tr><tr><td>育成医療</td><td>114</td><td>55</td><td>36</td><td>20</td><td>10</td><td>6</td></tr><tr><td>養育医療</td><td>189</td><td>182</td><td>190</td><td>195</td><td>165</td><td>169</td></tr><tr><td>特定疾患</td><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>特定疾病</td><td>88</td><td>100</td><td>92</td><td>115</td><td>124</td><td>147</td></tr><tr><td>生活保護</td><td>182</td><td>182</td><td>181</td><td>188</td><td>185</td><td>193</td></tr><tr><td>精神保健</td><td>89</td><td>69</td><td>52</td><td>50</td><td>32</td><td>29</td></tr><tr><td>その他</td><td>143</td><td>146</td><td>204</td><td>751</td><td>1,207</td><td>245</td></tr><tr><td>計</td><td>2,645</td><td>2,512</td><td>2,452</td><td>3,002</td><td>3,304</td><td>2,365</td></tr></table>														区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	小児慢性	1,837	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	育成医療	114	55	36	20	10	6	養育医療	189	182	190	195	165	169	特定疾患	3	7	6	9	10	11	特定疾病	88	100	92	115	124	147	生活保護	182	182	181	188	185	193	精神保健	89	69	52	50	32	29	その他	143	146	204	751	1,207
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																											
小児慢性	1,837	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565																																																																											
育成医療	114	55	36	20	10	6																																																																											
養育医療	189	182	190	195	165	169																																																																											
特定疾患	3	7	6	9	10	11																																																																											
特定疾病	88	100	92	115	124	147																																																																											
生活保護	182	182	181	188	185	193																																																																											
精神保健	89	69	52	50	32	29																																																																											
その他	143	146	204	751	1,207	245																																																																											
計	2,645	2,512	2,452	3,002	3,304	2,365																																																																											

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																											
								本	説明																																										
		【目標値】 ・公開講座件数 (総合、こころ、こども)	【目標値】 ・公開講座件数 (総合、こころ、こども)	97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。 総合 こども	(総合) オープンホスピタル来場者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1, 200</td><td>1, 200</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1, 400</td></tr></table> (こども) 「I Loveしずおか協議会」主催の「おまち・ワンダーランド・青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加し、「いのりの木」を設置。入院患者や医療従事者へのメッセージを投函できる仕組みとするなど、こども病院の周知を図った。 なお、以前参加していた (株) 静岡新聞社、静岡放送 (株) が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」は、イベントの開催が終了となった。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	1, 200	1, 200	—	—	—	1, 400		A	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげてきたが、令和2年度から4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送っている。令和5年度は4年ぶりに開催し、コロナ以前よりも多い来場者数となった。 また、「病院だより」等、健康情報が記載されている冊子をホームページに掲載しており、健康に関する知識の充実につなげている。																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																													
来場者数	1, 200	1, 200	—	—	—	1, 400																																													
				98	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。 各病院 (企画)	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行った。 セクション別アクセス件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度 ※</th></tr><tr><td>本部</td><td>226, 519</td><td>232, 673</td><td>246, 234</td><td>234, 744</td><td>214, 098</td><td>131, 077</td></tr><tr><td>総合</td><td>2, 322, 348</td><td>2, 902, 755</td><td>2, 751, 715</td><td>2, 542, 438</td><td>2, 297, 492</td><td>697, 708</td></tr><tr><td>こころ</td><td>376, 258</td><td>662, 762</td><td>659, 939</td><td>674, 386</td><td>689, 495</td><td>203, 172</td></tr><tr><td>こども</td><td>1, 690, 943</td><td>1, 772, 069</td><td>1, 800, 380</td><td>1, 810, 951</td><td>1, 545, 737</td><td>433, 318</td></tr><tr><td>合計</td><td>4, 616, 068</td><td>5, 570, 259</td><td>5, 458, 268</td><td>5, 262, 519</td><td>4, 746, 822</td><td>1, 465, 275</td></tr></table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない (集計は、7月～3月分)	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	本部	226, 519	232, 673	246, 234	234, 744	214, 098	131, 077	総合	2, 322, 348	2, 902, 755	2, 751, 715	2, 542, 438	2, 297, 492	697, 708	こころ	376, 258	662, 762	659, 939	674, 386	689, 495	203, 172	こども	1, 690, 943	1, 772, 069	1, 800, 380	1, 810, 951	1, 545, 737	433, 318	合計	4, 616, 068	5, 570, 259	5, 458, 268	5, 262, 519	4, 746, 822	1, 465, 275		A	第3期中期目標期間中も引続き、機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。 各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※																																													
本部	226, 519	232, 673	246, 234	234, 744	214, 098	131, 077																																													
総合	2, 322, 348	2, 902, 755	2, 751, 715	2, 542, 438	2, 297, 492	697, 708																																													
こころ	376, 258	662, 762	659, 939	674, 386	689, 495	203, 172																																													
こども	1, 690, 943	1, 772, 069	1, 800, 380	1, 810, 951	1, 545, 737	433, 318																																													
合計	4, 616, 068	5, 570, 259	5, 458, 268	5, 262, 519	4, 746, 822	1, 465, 275																																													
				99	③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。 各病院 (企画)	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 記者情報提供件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>提供件数</td><td>43</td><td>36</td><td>19</td><td>29</td><td>21</td><td>42</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>30</td><td>24</td><td>13</td><td>20</td><td>14</td><td>25</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	提供件数	43	36	19	29	21	42	掲載件数	30	24	13	20	14	25		A	第3期中期計画期間中は、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供は適切に行うことができた。令和元年以前と比較すると新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントに関する情報等は減少しているが、人工内耳セミナーの開催や、脾臓がんドックの開始など、適切な時期に情報発信している。 引き続き、継続して取り組みを実施していく。																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																													
提供件数	43	36	19	29	21	42																																													
掲載件数	30	24	13	20	14	25																																													
5	災害等における医療救護	5	災害等における医療救護	—	—	—	—		—																																										
	県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。		地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	—	—	—	—		—																																										

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																			
										本	説明																																																																																		
(1) 医療救護活動の拠点機能		(1) 医療救護活動の拠点機能		(1) 医療救護活動の拠点機能		—	—	—		S	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施している。令和4年度、本県を対象県として行われた大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)では、DMAT隊員が企画に参加、訓練当日は院長、事務部長、看護部長も参加した。 また、令和3年度においては熱海伊豆山土砂災害派遣へDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)を行ったことや、令和3年～4年にかけては新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)を行っている。 令和5年度においては、能登半島地震に伴うDMAT派遣を3チーム(1チームは他の病院との混合)派遣し、ロジスティックチームの派遣として、1名を派遣した。また、県対策本部に延べ38名を派遣した。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。																																																																																		
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。		日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。		①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う ③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築		—	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。 ③【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	年度別実績 <table><tr><td rowspan="5">元年度</td><td>令和. 6. 20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td><td rowspan="5">4年度</td><td>令和7. 7・13</td><td>新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)</td></tr><tr><td>令和. 7. 3</td><td>院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)</td><td>令和7. 13</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令和. 7. 11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和7. 30</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)</td></tr><tr><td>令和. 11. 2～3</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td><td>令和4. 9. 30・10. 1</td><td>大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員: 26名、他職員15名)</td></tr><tr><td>令和. 12. 1</td><td>県立総合病院防災訓練</td><td>令和4. 12. 4</td><td>院内防災訓練実施(参加者61名)</td></tr><tr><td rowspan="5">2年度</td><td>令和2. 1. 26</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td><td rowspan="5">5年度</td><td>令和4. 12. 10・11</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者15名)</td></tr><tr><td>令和2. 7. 10</td><td>院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)</td><td>令和4. 12. 15</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)</td></tr><tr><td>令和2. 7. 16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td><td>令和5. 2. 4</td><td>静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)</td></tr><tr><td>令和2. 9. 17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td><td>令和5. 2. 19</td><td>静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)</td></tr><tr><td>令和3. 7. 7</td><td>院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)</td><td>令和5. 2. 23</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)</td></tr><tr><td rowspan="5">3年度</td><td>令和3. 10. 30</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)</td><td rowspan="5">5年度</td><td>令和5. 6. 18</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)</td></tr><tr><td>令和3. 11. 27</td><td>静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td><td>令和5. 7. 7・13</td><td>新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)</td></tr><tr><td>令和3. 12. 5</td><td>院内防災訓練実施(参加者46名)</td><td>令和5. 9. 30</td><td>大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>令和4. 3. 18</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td><td>令和5. 10. 28～29</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>令和5. 12. 17</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>令和6. 3. 2</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)</td></tr></table> 主な活動実績 <table><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和3. 4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>令和3. 7～</td><td>熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)</td></tr><tr><td>4年度</td><td>令和4. 4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>5年度</td><td>令和6. 1～</td><td>能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地)(DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名)</td></tr></table>				元年度	令和. 6. 20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令和7. 7・13	新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)	令和. 7. 3	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)	令和7. 13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和. 7. 11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和7. 30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)	令和. 11. 2～3	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令和4. 9. 30・10. 1	大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員: 26名、他職員15名)	令和. 12. 1	県立総合病院防災訓練	令和4. 12. 4	院内防災訓練実施(参加者61名)	2年度	令和2. 1. 26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	5年度	令和4. 12. 10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者15名)	令和2. 7. 10	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)	令和4. 12. 15	第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)	令和2. 7. 16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令和5. 2. 4	静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)	令和2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令和5. 2. 19	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)	令和3. 7. 7	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)	令和5. 2. 23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)	3年度	令和3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)	5年度	令和5. 6. 18	第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)	令和3. 11. 27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令和5. 7. 7・13	新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)	令和3. 12. 5	院内防災訓練実施(参加者46名)	令和5. 9. 30	大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)	令和4. 3. 18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令和5. 10. 28～29	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施				令和5. 12. 17	第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)					令和6. 3. 2	第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)	3年度	令和3. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)	令和3. 7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)	4年度	令和4. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)	5年度
元年度	令和. 6. 20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令和7. 7・13	新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)																																																																																								
	令和. 7. 3	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)		令和7. 13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																								
	令和. 7. 11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令和7. 30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)																																																																																								
	令和. 11. 2～3	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施		令和4. 9. 30・10. 1	大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員: 26名、他職員15名)																																																																																								
	令和. 12. 1	県立総合病院防災訓練		令和4. 12. 4	院内防災訓練実施(参加者61名)																																																																																								
2年度	令和2. 1. 26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	5年度	令和4. 12. 10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者15名)																																																																																								
	令和2. 7. 10	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)		令和4. 12. 15	第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)																																																																																								
	令和2. 7. 16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令和5. 2. 4	静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)																																																																																								
	令和2. 9. 17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施		令和5. 2. 19	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)																																																																																								
	令和3. 7. 7	院内各セクションに対し、消防訓練等の取組講習を実施(新機採用職員を中心に約100人参加)		令和5. 2. 23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)																																																																																								
3年度	令和3. 10. 30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)	5年度	令和5. 6. 18	第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)																																																																																								
	令和3. 11. 27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施		令和5. 7. 7・13	新機採用者及び転入者を対象に消防訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)																																																																																								
	令和3. 12. 5	院内防災訓練実施(参加者46名)		令和5. 9. 30	大規模地震時災害活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)																																																																																								
	令和4. 3. 18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施		令和5. 10. 28～29	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																								
					令和5. 12. 17	第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)																																																																																							
				令和6. 3. 2	第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)																																																																																								
3年度	令和3. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)																																																																																											
	令和3. 7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)																																																																																											
4年度	令和4. 4～	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)																																																																																											
5年度	令和6. 1～	能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地)(DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名)																																																																																											
						100 ～ 102	災害発生直後に精神科医療における支援が可能なDPAT(災害派遣精神科医療チーム)を保有し、被災地へのDPATの派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備しており、令和3年2月には、診療機能、一時的避難所及びDPAT派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内初となる指定を受けた。 令和元年9月の台風15号(千葉県)、令和3年7月の熱海市土砂災害、令和6年1月の能登半島地震では、県の要請に基づきDPAT隊を派遣し、被災地における精神科医療体制の整備に取り組むとともに、被災者のこころのケアに従事するなど、災害時における精神医療分野の基幹的役割を果たしている。 国・県が主催するDPAT関連の研修及び訓練に参加し、発災時においてスムーズな支援活動が実施できるよう、医療救護人材の育成や県・市町等との連携強化に努めた。																																																																																						
						100 ～ 102	令和3年2月に県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けている。大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、災害発生時には要請に応じてD P A T隊を派遣できる体制を維持している。			S																																																																																			
						100 ～ 102	防災訓練(避難訓練)実績 <table><tr><td rowspan="7">元年度</td><td>令和. 7. 11</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td><td rowspan="7">4年度</td><td>令和7. 7. 13</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td></tr><tr><td>令和. 8. 23</td><td>院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施</td><td>令和4. 9. 4</td><td>静岡県・浜松市・湖西市・吉田町・川根本町総合防災訓練における防災訓練に参加</td></tr><tr><td>令和. 8. 26</td><td>県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td><td>令和4. 9. 5</td><td>院内防災訓練</td></tr><tr><td>令和. 9. 1</td><td>静岡県、三島市、浜南町との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加</td><td>令和4. 10. 1</td><td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td></tr><tr><td>令和. 9. 7</td><td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td><td>令和4. 11. 28</td><td>院内防災訓練(第2回)</td></tr><tr><td>令和. 11. 25</td><td>院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施</td><td>令和5. 1. 17</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td></tr><tr><td>令和. 12. 18</td><td>静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">2年度</td><td>令和2. 1. 17</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td><td rowspan="8">5年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令和2. 7. 16</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td><td>令和5. 7. 7</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td></tr><tr><td>令和2. 8. 31</td><td>院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施</td><td>令和5. 8. 22</td><td>県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td></tr><tr><td>令和2. 10. 26</td><td>院内防災訓練(第1回)</td><td>令和5. 9. 3</td><td>静岡県市・浜松市・湖西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加</td></tr><tr><td rowspan="4">3年度</td><td>令和3. 1. 25</td><td>院内防災訓練(第2回)</td><td>令和5. 9. 4</td><td>院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施</td></tr><tr><td>令和3. 7. 7</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td><td>令和5. 9. 30</td><td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td></tr><tr><td>令和3. 8. 30</td><td>院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施</td><td>令和5. 12. 7</td><td>院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施</td></tr><tr><td>令和3. 11. 29</td><td>院内防災訓練</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和4. 1. 17</td><td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td><td rowspan="2">5年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令和4. 1. 31</td><td>院内防災訓練(第2回)</td><td></td><td></td></tr></table>	元年度	令和. 7. 11			県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	4年度	令和7. 7. 13	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和. 8. 23	院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施	令和4. 9. 4	静岡県・浜松市・湖西市・吉田町・川根本町総合防災訓練における防災訓練に参加	令和. 8. 26	県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加	令和4. 9. 5	院内防災訓練	令和. 9. 1	静岡県、三島市、浜南町との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加	令和4. 10. 1	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令和. 9. 7	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令和4. 11. 28	院内防災訓練(第2回)	令和. 11. 25	院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施	令和5. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和. 12. 18	静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加			2年度	令和2. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	5年度			令和2. 7. 16	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和5. 7. 7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和2. 8. 31	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施	令和5. 8. 22	県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和2. 10. 26	院内防災訓練(第1回)	令和5. 9. 3	静岡県市・浜松市・湖西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加	3年度	令和3. 1. 25	院内防災訓練(第2回)	令和5. 9. 4	院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施	令和3. 7. 7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令和5. 9. 30	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令和3. 8. 30	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施	令和5. 12. 7	院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施	令和3. 11. 29	院内防災訓練			3年度	令和4. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	5年度			令和4. 1. 31	院内防災訓練(第2回)											
元年度	令和. 7. 11	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	4年度	令和7. 7. 13	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																								
	令和. 8. 23	院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施		令和4. 9. 4	静岡県・浜松市・湖西市・吉田町・川根本町総合防災訓練における防災訓練に参加																																																																																								
	令和. 8. 26	県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加		令和4. 9. 5	院内防災訓練																																																																																								
	令和. 9. 1	静岡県、三島市、浜南町との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加		令和4. 10. 1	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加																																																																																								
	令和. 9. 7	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加		令和4. 11. 28	院内防災訓練(第2回)																																																																																								
	令和. 11. 25	院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施		令和5. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																								
	令和. 12. 18	静岡県国民保護共同実動訓練(小山町)に参加																																																																																											
2年度	令和2. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	5年度																																																																																										
	令和2. 7. 16	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加		令和5. 7. 7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																								
	令和2. 8. 31	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施		令和5. 8. 22	県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																								
	令和2. 10. 26	院内防災訓練(第1回)		令和5. 9. 3	静岡県市・浜松市・湖西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加																																																																																								
3年度	令和3. 1. 25	院内防災訓練(第2回)		令和5. 9. 4	院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施																																																																																								
	令和3. 7. 7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加		令和5. 9. 30	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加																																																																																								
	令和3. 8. 30	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施		令和5. 12. 7	院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施																																																																																								
	令和3. 11. 29	院内防災訓練																																																																																											
3年度	令和4. 1. 17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	5年度																																																																																										
	令和4. 1. 31	院内防災訓練(第2回)																																																																																											
							DPAT派遣実績 <table><tr><td rowspan="2">元年度</td><td>令和元. 9. 10～12</td><td>静岡県で発生した地震に際し、主に千歳川、沼津市で発生、令和元、令和2の対応に係る県健康福祉部対策本部支援</td><td rowspan="2">4年度</td><td colspan="2">活動実績なし</td></tr><tr><td>令和2. 2. 3～5</td><td>静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td rowspan="2">2年度</td><td>令和2. 10～15</td><td>静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)</td><td rowspan="2">5年度</td><td>令和6. 1. 4～8</td><td>能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部)</td></tr><tr><td>令和2. 12. 9</td><td>静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)</td><td>令和6. 1. 18～22</td><td>能登半島地震に伴う派遣(DPAT拠点本部)</td></tr><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令和3. 7. 3</td><td>熱海市土砂災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)</td><td rowspan="2">5年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>令和4. 1. 27</td><td>静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)</td><td></td><td></td></tr></table>	元年度	令和元. 9. 10～12	静岡県で発生した地震に際し、主に千歳川、沼津市で発生、令和元、令和2の対応に係る県健康福祉部対策本部支援	4年度	活動実績なし		令和2. 2. 3～5	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)			2年度	令和2. 10～15	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)	5年度	令和6. 1. 4～8	能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部)	令和2. 12. 9	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)	令和6. 1. 18～22	能登半島地震に伴う派遣(DPAT拠点本部)	3年度	令和3. 7. 3	熱海市土砂災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)	5年度			令和4. 1. 27	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)																																																										
元年度	令和元. 9. 10～12	静岡県で発生した地震に際し、主に千歳川、沼津市で発生、令和元、令和2の対応に係る県健康福祉部対策本部支援	4年度	活動実績なし																																																																																									
	令和2. 2. 3～5	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)																																																																																											
2年度	令和2. 10～15	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)	5年度	令和6. 1. 4～8	能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部)																																																																																								
	令和2. 12. 9	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)		令和6. 1. 18～22	能登半島地震に伴う派遣(DPAT拠点本部)																																																																																								
3年度	令和3. 7. 3	熱海市土砂災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)	5年度																																																																																										
	令和4. 1. 27	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練(県対策本部参加)																																																																																											

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価	
										本	説明
										A	新採職員向け消火避難訓練、総合防災訓練及び夜間想定防火避難誘導訓練を実施した。

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価	
										本	説明
1	効率的な業務運営体制の強化 医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	1	効率的な業務運営体制の強化 医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1	効率的な業務運営体制の強化 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院の劣化改修工事等を計画的に施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な質と量に応じた人材の適時採用 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	-	-	-	-	-	-
104							本部・各病院（総務・企画・経営）	-	-		S
105							本部・各病院（総務・企画・経営）				A

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)										第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価		
								本	説明											
						106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	本部（経営）	理事会等における月次決算の報告回数 (単位：回)										A	第3期中期目標期間中、理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。
						107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	各病院（企画・経営）	理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。										A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 コロナ禍においては、診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させている。
		【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）		【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）		108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	各病院（企画）	業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 業務改善運動推進制度実績件数 (単位：件)										A	「業務改善運動推進制度」については、職員が常時業務の改善提案できる体制を整備し、各病院で広く業務の改善に取り組んでいる。第3期中期目標期間中の令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応策に特化した改善策を募集しており、優れた取り組みについては、ホームページなどで広く周知を図った。
2 事務部門の専門性の向上		2 事務部門の専門性の向上		2 事務部門の専門性の向上		109	①階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	本部（総務）	事務職員に対する研修状況										A	第3期中期目標期間中は、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を継続的に実施している。 また、令和2年度から管理職員を対象に必要な労働基準法の知識を取得するために、階層別研修として労務管理研修を新設した。
		経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。		①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化		110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	本部・各病院（総務）	診療情報管理士資格取得状況 (単位：人)										A	第3期中期目標期間中においては、診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行っている。
									※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者											

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間 (H31・R元～R5) 実績 自己評価																																																																																										
									本	説明																																																																																										
				114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	総合	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>薬品</td><td>2,931</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>3,526</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>969</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>668</td></tr></table> 薬品・診療材料在庫額 (単位：千円) <table><tr><th>区分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>薬品</td><td>92,244</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>188,840</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>224,292</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>263,420</td></tr></table>						区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	診療材料	969	973	627	1,631	979	668	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品 (ただし緊急時には困るもの) が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を増やすなど診療に支障がないよう取り組んでいる。																																												
					区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																								
					薬品		2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526																																																																																								
診療材料	969	973	627	1,631	979	668																																																																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																														
薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840																																																																																														
診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420																																																																																														
	115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	各病院 (企画)	診療材料コスト縮減実績 (単位：千円) <table><tr><th>区 分</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>85,869</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>132,620</td><td>81,872</td><td>116,931</td></tr><tr><td>こころ</td><td>95</td><td>13</td><td>3</td><td>105</td><td>99</td><td>38</td></tr><tr><td>こども</td><td>15,458</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>22,956</td><td>24,366</td><td>21,529</td></tr><tr><td>合 計</td><td>101,422</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>155,681</td><td>106,337</td><td>138,498</td></tr></table> 5年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="4">診療材料品目数</th><th colspan="4">薬品品目数</th></tr><tr><th>5年度当初 契約数 (a)</th><th>新規採用数 (b)</th><th>廃止数 (c)</th><th>契約数 (a+b-c)</th><th>5年度当初 契約数 (a)</th><th>新規採用数 (b)</th><th>廃止数 (c)</th><th>契約数 (a+b-c)</th></tr><tr><td>総合</td><td>17,429</td><td>592</td><td>356</td><td>17,665</td><td>2,076</td><td>220</td><td>120</td><td>2,176</td></tr><tr><td>こころ</td><td>418</td><td>23</td><td>36</td><td>405</td><td>613</td><td>54</td><td>27</td><td>640</td></tr><tr><td>こども</td><td>3,827</td><td>151</td><td>91</td><td>3,887</td><td>1,335</td><td>55</td><td>31</td><td>1,359</td></tr><tr><td>合 計</td><td>21,674</td><td>766</td><td>483</td><td>21,957</td><td>4,024</td><td>329</td><td>178</td><td>4,175</td></tr></table>						区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総 合	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	こころ	95	13	3	105	99	38	こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	合 計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	区 分	診療材料品目数				薬品品目数				5年度当初 契約数 (a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数 (a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176	こころ	418	23	36	405	613	54	27	640	こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359	合 計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175	A	診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。 (総合) 診療材料については、価格交渉および共同購入の取り組みによる還元を実施している。共同購入の還元額については、年々増加している。品目数の廃止数については、年度末に調査を行い廃止とする。 (こころ) 採用可能な後発品の採用を進め、薬価の減少に努めている。また、入院患者の持参薬の臨時採用の見直しなどを進めたこともあり、コスト縮減を図っている。診療材料については、主に消毒液の在庫管理の適正化を図り、期限切れによる廃棄の防止に努めていく。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定している。	
		区 分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																											
		総 合		85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931																																																																																											
こころ	95	13	3	105	99	38																																																																																														
こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529																																																																																														
合 計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498																																																																																														
区 分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																															
	5年度当初 契約数 (a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数 (a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)																																																																																												
総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176																																																																																												
こころ	418	23	36	405	613	54	27	640																																																																																												
こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359																																																																																												
合 計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175																																																																																												
	116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	各病院 (企画)	各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。						A	総合病院において、複数回の交渉の結果等の取り組みにより備品購入にあたって適切な金額での契約を行っている。 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。 引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。																																																																																									

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)		第3期中期目標期間(H31・R元～R5)実績 自己評価																																																																																											
						各病院（企画）	委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか適するか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図っている。 5年度 委託契約等の見直し状況（単年度ベース・令和5年度末時点）（単位：千円） <table><tr><th>業務名(連携)</th><th>連携</th><th>年数</th><th>期間</th><th>種類</th><th>令5決議額</th></tr><tr><td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>64,758</td></tr><tr><td>寝具類賃貸借</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価</td><td>104,128</td></tr><tr><td>消防設備点検業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>10,658</td></tr><tr><td>庭園管理業務委託</td><td>心・子</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額</td><td>9,864</td></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>274,197</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>234,834</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令5.4～令6.3</td><td>定額</td><td>85,293</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令5.5～令6.3</td><td>定額</td><td>6,600</td></tr><tr><td colspan="5">合 計</td><td>790,332</td></tr></table> 5年度 委託モニタリング評価結果（令和5年度末時点） <table><tr><th>区 分</th><th>第1期</th><th>第2期</th><th>第3期</th><th></th></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td></td></tr><tr><th>区 分</th><th>第1四半期</th><th>第2四半期</th><th>第3四半期</th><th>第4四半期</th></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>警備（心・子）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>医事（総・心）</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> ※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容を評価。 ※-〇％：業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したもの	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758	寝具類賃貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658	庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600	合 計					790,332	区 分	第1期	第2期	第3期		給食	可	可	可		区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備（心・子）	可	可	可	可	医事（総・心）	可	可	可	可	A	
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額																																																																																														
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758																																																																																														
寝具類賃貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128																																																																																														
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658																																																																																														
庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864																																																																																														
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197																																																																																														
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834																																																																																														
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293																																																																																														
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600																																																																																														
合 計					790,332																																																																																														
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																																
給食	可	可	可																																																																																																
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																															
清掃	可	可	可	可																																																																																															
警備（心・子）	可	可	可	可																																																																																															
医事（総・心）	可	可	可	可																																																																																															
				117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。 <																																																																																														